

17世紀前半西ヨーロッパにおける ニュルンベルク為替銀行の意義

——アムステルダム為替銀行との比較を中心に——

名城邦夫

はじめに

われわれは、これまで西ヨーロッパにおける市場経済の発展過程を主として遠隔地貿易を中心とする域外取引の発展とその信用決済の展開に注目して検討してきた。西ヨーロッパにおける市場経済の発展は、カール大帝の西ヨーロッパ統一王権の建設によってその基盤が与えられた。これまでの地中海中心の市場経済の発展は、北西ヨーロッパの北海、バルト海地域が新たに加わり、西ヨーロッパは南北にその中心を持つ経済圏としてスタートすることになった。カール大帝は貨幣改革を行い古代的な伝統を踏襲しつつ銀本位制を導入し、*libra—solidus—denarius* 計算体系を確立し、銀貨 *denarius* 貨のみの製造し、当時の西ヨーロッパ内陸中心の経済に見合った貨幣制度を導入した¹⁾。貨幣制度のみならず、度量衡や流通制度が整備され、領主制の展開とも相まっていまだ限られた部分であったが、かつての司教座の所在地や領主の居城さらには河川や主要道路などの交通の要衝に都市が建設され、手工業も伴う市場経済の発展がみられた²⁾。

ルードヴィヒ敬虔帝の統治以降、貨幣高権

が有力領主に特権として付与され、分裂していった。中世後期にはドイツ地域だけで貨幣高権領主は300以上を数え、600以上の貨幣製造所が知られるようになる³⁾。商業の復活と共に12世紀にイタリアで初めて中位銀貨が製造され徐々にアルプスから北の地域にも広がっていき、さらに、13世紀中葉には金貨が製造され、金銀複本位制が広くヨーロッパで実施されるようになる⁴⁾。こうしてますます貨幣の錯綜混乱が進んだ。もともと、中世における貨幣製造技術では個々の硬貨の重量・品位は正確に製造することができず、さらには、削り取りや磨滅のために最初から貨幣の選択が行われ、貨幣単位の計算貨幣化が生ずることになった。とりわけ小額貨幣は高額貨幣に比べてその製造に費用がかさみ、損失が生ずる場合もあった。その結果、小額貨幣が貶質しやすく、小額貨幣で表示される価格と高額貨幣で表示される価格が乖離することとなった⁵⁾。そこで、域外貿易に携わ

3) Rudolf Fuchs, *Banco Publico zu Nürnberg*, Dissertation Nürnberg 1950, S. 3f.

4) 名城, 前掲書 164頁以下参照。

5) 高額貨幣に比べて小額貨幣は貨幣製造費がかさみ、常に貨幣貶質の危険が付きまとった。1606年ザクセン領邦の貨幣親方ハインリッヒ・フォン・レヒヒネの費用勘定によると銀100マルクからターラー銀貨を製造した場合14グルデン (以下flと略記) 以上の利益があり、帝

1) 名城邦夫『中世ドイツ・バムベルク司教領の研究』ミネルヴァ書房 2000年 154頁以下参照。

2) 同上書 237頁以下参照。

る商人を中心にして、彼らの間での商取引に必要な貨幣を独自に創造し、その貨幣によって取引を完結させる手法が考案されていった⁶⁾。

西ヨーロッパにおいて貨幣の縁の削り取りや、金属の剥片から新たな貨幣を製造する「フィース」Fiesが一つの職業として知られており、これによって多くの人々が生活していた⁷⁾。価値が減価した貨幣は高額を支払いにおいては選別が可能であったが、日常の小額貨幣取引においては統制することは容易ではなく、貨幣の受領者は損失を被ることになった。貨幣価値を安定させ、取引貨幣の価値を一定に保つためには価値尺度となる貨幣を流通から隔離し、取引参加者の間で信用によって取引する方法が最も確実である。一般に、このような方法が確立されるためには領域内の貨幣制度との何らかの関係が生じることになる。そこで、さまざまな工夫を凝らして両者を分離する必要があった。

デンツェルによると、このような域外決済貨幣と域内貨幣流通を分離しつつ統合する手法は、13世紀ころ北イタリアの「中世商業革命」

の過程の中で形成されていったとみなしている⁸⁾。複式簿記・会社制度・銀行・為替手形の技術や制度によってそのことが可能になった。こうして、為替相場と貨幣相場という二つの指標によって域外決済貨幣の安定と地域貨幣流通の自律的な展開が実現された。

域外決済貨幣は実際に製造された貨幣の中で最も安定していた貨幣が、流通から徐々に退場する過程で抽象的な計算貨幣として成立していく。ついには、かつての実体貨幣の価値とは関係を失い、独自の価値尺度となっていった。こうして、高額貨幣による主要な取引は、西ヨーロッパの商人によって大市商業として展開され、その期間中最後の数週間に決済された。都市や地域を集合決済し、それらの帳尻を記した帳簿を大市台帳において決済し、残額は次の大市で繰り延べて決済するか、それぞれの商人宛の戻し為替を組み決済された。

最初のヨーロッパ大の大市はシャンパーニュで開催され、フィレンツェン貨幣フィオリノが計算貨幣として使用されたが、ヨーロッパ大の取引はジュネーヴ大市、リオン大市に継承された。その後、16世紀後半にはジェノヴァ商人を中心とした決済に特化した大市がピアツェンツァで開催され、計算貨幣スクードによって西ヨーロッパ大の商取引が決済された。

本論文では、16世紀までの有力商人によって対面でヨーロッパの主要な商取引を決済する大市決済の段階から、17世紀の公立為替銀行による銀行貨幣＝計算貨幣を用いた多角的決済システム成立の意義を検討する。銀行ではすべての取引が個別決済され、その価値が銀行貨幣

国グロッシェンを製造した場合約18flの損失がで、3ペニヒ貨を製造した場合には46fl以上の損失がでた。

Bernd Sprenger, *Das Geld der Deutschen Geldgeschichte Deutschlands von den Anfängen bis zur Gegenwart*, München 1995, S. 110.

6) Friedrich-Wilhelm Henning, *Zahlungssancen und Nichtmetallgeld im ausgehenden Mittelalter. Ein Beitrag zur Entwicklung von Buch-und Papeirgeld*, in, Hermann Kellenbenz, *Weldwirtschaftliche und währungsplittische Probleme seit dem Ausgang des Mittelalters*, Stuttgart 1981, S. 50ff.

7) Fuchs, a. a. O., S. 8.

8) Markus A. Denzel, *Kurialer Zahlungsverkehr im 13. und 14. Jahrhundert*, Stuttgart 1991, S. 23ff.

によって評価される。決済は、為替手形や支払指図証などの価値標章によって決済され基本的に現金は使用されない。口座にあらかじめ流通貨幣が銀行貨幣に換算され預金されており、顧客はこの価値の固定された預金を使用して相互に相殺や振替によって決済することになる。

北西ヨーロッパではアムステルダムをはじめロッテルダム、ハンブルク等の5つの都市で公立為替銀行が設立された⁹⁾。これらの銀行の基本的形態はほとんど変わっていないが、唯一、アムステルダム為替銀行が西ヨーロッパ大の決済銀行に発展することになる。これに対して、神聖ローマ帝国中北海沿岸以外で唯一設立されたニュルンベルク為替銀行はその性格を異にしている。われわれは、このニュルンベルク為替銀行の特徴を明らかにし、アムステルダムやハンブルクと比較することによって近世為替銀行の歴史的特徴を解明し、近代的決済システムの成立過程を明らかにするための一助としたい。

I 近代的決済システムの成立

1 17世紀初頭までのアムステルダムの発展

アムステルダムは15世紀までは神聖ローマ帝国領の北辺に位置する小さな田舎町であった。ところが、16世紀の商業革命に伴い経済中心地が北西ヨーロッパへ移動するとともに飛躍的發展を遂げることになる。北海とザイデル海に面しライン・マース・スヘルデ川のデルタ地帯のホラント・ゼーラント両州が経済中心地として発展し、16世紀中頃ズンド海峡の制海

権の獲得を契機に両州はネーデルラントの中心地として発展し、アムステルダムはヨーロッパ一の穀物取引市場となり、鯨鱈漁の発展も加わり繁栄を誇った。このような中で造船業や海運業も隆盛を見、バルト海商業と海運がこの地域の経済発展の基盤を形成した¹⁰⁾。

その後、宗教改革の影響によって低地諸国にプロテスタンティズムの浸透がみられるようになり、とりわけアントウェルペンを中心とする南ネーデルラントは新教徒の増加が著しかった。スペイン王フェリッペ2世はこれを嚴重に監視弾圧した。その結果、ネーデルラント全土で反乱がおこり独立戦争へと発展した。1585年当時ヨーロッパ最大の商港であったアントウェルペンがスペイン軍により占領略奪された。ネーデルラント軍はスヘルデ河口を封鎖し、この封鎖以降アントウェルペンは急速に衰退していった。外国商人とその巨大な資本はアムステルダムに移動し、発達した商業制度や企業家精神がアムステルダムにもたらされることになる。さらにそれ以前に、アムステルダムにはイベリア半島に在住し、二度にわたる追放によって離散したセファルディム Sephardim 系ユダヤ人も多数来住し、イタリア商人をはじめドイツ商人さらにはイギリス商人なども多数移住し、当時随一の国際都市として繁栄し、17世紀中葉には20万都市に発展していく¹¹⁾。

先に述べた現金を使用しない信用決済システ

10) Herman van der Wee, Monetary, Credit and Banking Systems, in, The Cambridge Economic History of Europe. Bd. 5. Cambridge 1967, p. 290-358.

11) Barry Supple, The Nature of Enterprise, in, Op cit, p. 394-451. p. 248-252; Hans Hausserr, Wirtschafts- Geschichte der Neuzeit, Köln 1960, S. 180ff.

9) Helma Houtman-De Smelt, Herman van der Wee, Die Entstehung des moderne Geld -und Finanzwesens Europas in der Neuzeit, in, Hans Pohl, Europäische Bankengeschichte, Frankfurt am Main 1993, S. 129.

ムは16世紀後半に新たな段階に到達した。これまでの大市取引決済から商品取引と決済取引の分離が実現し、貨幣支払約定（為替・指図証書）の性格が、引受信用による近代の手形として無因証券化がはかられることになった。こうして大市集合決済から銀行による個別振替決済への進化が達成され、アムステルダム為替銀行による近代的な決済システムが成立することになった。公立銀行の当座預金を引受信用の担保とすることによって貨幣支払約定の信用基盤は狭い商人集団からオランダ共和国ホラント州アムステルダム市によって設立された公立銀行の銀行信用に飛躍的に拡大し、新たなヨーロッパ大の多角的決済システムの価値尺度としての銀行貨幣バンコ・グルデンが創造されることとなった¹²⁾。

アムステルダム為替銀行設立までには、それまでの様々な金融上の革新が集大成され、一つの西ヨーロッパ大の決済システムに結実することになるが、ここで少しその前史をたどることにする。まず、大市商業から取引所取引への転換は1531年アントウェルペン（先駆形態1460年）で先鞭をつけられた。ニュルンベルクでは16世紀前半、ハンブルク1558年、アムステルダム1611年（先駆形態1530年）さらにはフランクフルト・アム・マイン（先駆形態1585年）

等、徐々に大市商業から取引所商業への移行が進んだが、それには手形等の貨幣支払約定の性格変化を必要とした¹³⁾。

16世紀の80年代以来アントウェルペン商人はアムステルダムに移民するとともに信用上の革新を行った。貨幣支払約定は裏書・割引によって広範に流通するようになり、加えて手形の信用基盤の発行者から引受者への転換が起こった。これは、取引の広域化に伴い取引成立地の信用から決済地における信用をより重視し、当時広く認められるようになった低地地域のマーチャント・バンカーによる引受信用に手形信用の転換が行われ、これによってより広範な商人に取引への参加が可能となり、債権の社会化がより広範囲に拡大することとなったためである¹⁴⁾。

16世紀イタリアでは一般に手形の裏書・割引は認められなかった。当時の商人は商業取引における参加者をできるだけ狭い範囲に限定し独占することに利益がとを考えていたからである。その結果、17世紀中裏書は禁止されていた¹⁵⁾。このような状況の中で16世紀中に制度的革新として公立振替・為替銀行が設立されたが、これは15世紀の危機によって失われた銀行に対する信頼回復を目指すものであった。パレルモ（1553年）メッシナ（1587年）Banco della Piazza in Rialto ヴェネツィア（1587年）Banco Sant'Ambrogio ミラノ（1593年）等の公立振替銀行は公的信用を背景に顧客の取り付けによる支払不能の恐れを払拭することに成功した¹⁶⁾。こうして、支払決済取引は都市の振替

12) ノルトによると17世紀北西ヨーロッパ商業における引受信用の一般化により、相殺取引は無意味化し、私的銀行家による手形債務の買取りが一般化する。その結果、裏書・手形及び公債割引が普及し、金匠ノートないし銀行券類似証券が発行され、為替銀行や株式会社の設立によって商業信用が発展し、利子率が低下し、ヨーロッパにおける経済発展を促進したと主張している。Michael North, *Das Geld und seine Geschichte Vom Mittelalter bis zur Gegenwart*, München 1994, S. 118.

13) Sprenger, a. a. O., S. 122.

14) 楊枝嗣郎『近代初期イギリス金融革命』ミネルヴァ書房 2004年 146頁以下参照。

15) North, a. a. O., S. 116.

16) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O.,

銀行に集中し、商人は銀行に口座を開設し、それを担保に手形を発行し顧客の口座の振替決済と通じて商取引における決済から現金決済を排除していった。しかしながら、ここでは関係の強い狭い範囲の商人間の決済に限られており、広域的な決済には依然として大市決済を必要とした。手形や支払指図証の譲渡性流通性は厳しく制限されており、ごく限られた商人間しか決済されず、より広範な取引の決済には依然として大市決済が不可欠であった。

そのような中であって、16世紀後半これらの銀行の若干は口座所有者名義の現金預り証を発行し、これらは現金引出や現金払い手形として使用され、譲渡可能証書として機能していく。これは貨幣史上、最初の紙幣流通の開始を告げるものであった。銀行では、公債利子の支払いや、当時西ヨーロッパに広く見られた定期金売買取引や様々な取引が集中し、決済されることになった¹⁷⁾。

もちろん、このような取引は都市商人や貴族層に限られていたが、一部で社会的上層や有力農民の間で定期金取引や公債取引を通じて信用を授与されるものも生まれてくる。農業(耕地)定期金 *Gültkauf* や手工業(道具・技術)定期金 *Rebtenkauf* など多様な定期金が売買され、様々な権利が売却されそれを商人が購入し、それによって売却者は毎年5%程度の利子を支払った。その際、土地・道具が抵当とされ、万一滞納した場合には、土地や道具は商人の所有となった¹⁸⁾。

イタリアをはじめ広く西ヨーロッパで世俗権力のみならず教会の定期金に関する規定が多数

発布されたことから、定期金信用の重要性が認められる。定期金信用は土地改良や農業生産の収益性の向上に融資され、ブドウやオリーブ栽培等の分野に投資された¹⁹⁾。

これらの取引の仲介を行ったのは各地の公立銀行であり、銀行を通じて定期金売買が行われ、毎年の定期金が支払われることになった。万一、支払が停止した場合には数年間の信用が与えられ、都市の出納局の出先機関として公信用を授与し、地域の信用の円滑化を図ることになった²⁰⁾。

次に重要な決済上の革新はカスティリア大市における多角的決済システムの形成である。15世紀後半から16世紀前半にかけてスペインの隆盛と共に帝国の商業決済上の中心地としてカスティリア大市が発展を見るようになる。ここでは、三都市で年5回開催され、各大市は50日の期間中、最初の30日が商品大市であり最後の20間が決済大市として開催された。この大市にとってスペイン王権による大地開催の特権授与が決定的に重要であった。これによってカスティリア大市はヨーロッパ有数の商業大市に発展し、ヨーロッパ商業大市ネットワークの中で決定的地位を得ることになった²¹⁾。

取引に参加する都市や地域の預金銀行や振替銀行は彼らの取引決済を代行する大市銀行

19) Ibid., S. 93. 1599年スペインの事例では、コロンヴェストハイマーの有力農民イエルク・ミンアーは6.91.82fl. の遺産を残したが、そのうちの半分以上(38388fl.) が定期金投資(183通定期金証書)であった。彼は周辺の農民や手工業者から5%の利子で定期金を購入していた。

20) Ibid., 93.

21) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O., S. 99f.

S. 88ff.

17) North, a. a. O., S. 91.

18) Ibid., S. 92.

家を指名することができた。指名された大市銀行家は、大市帳簿上の記帳を通じて各銀行の顧客の取引をすべて決済する権限を与えられた。その際、決済においては各地域や都市の銀行に対して一定の信用を授与する権限を与えることによって取引の円滑化を図ることになった。顧客の取引は大市銀行家の大市台帳の各銀行の口座振替や手形によって各地域間の現金輸送は回避された。

カスティリア大市は16世紀初めにはヨーロッパ有数の支払金融大市に成長したが、各大市は強い規制の下で開催された。大市銀行家が店舗を構える通りは、大市期間中は鎖で閉鎖された。一日に二度だけ、午前11時頃から1時間、夕方5時頃から1時間、通行が許され、それによって顧客の商人は取引を行う機会が与えられ、期限がきた債務証書や手形を銀行家の大市台帳に記帳する時間であった。これら大市銀行家は、彼らの当座勘定を相互に決済するために丸二日間、対面して貨幣取引業務を行った。大市の規模が大きくなり、国際的取引の数量が拡大するにつれて債権債務の相殺の可能性が大きくなり、大部分は相殺や口座振替によって決済された。一部信用授与による決済の繰り延も見られたが、時間の経過と共に取引の中心は徐々に利子獲得を目指す純粋な信用取引に移行していった。このような金融は、しばしば手形の形態で授与され、これらは他の大市宛に振出された²²⁾。

カスティリア地域の預金及び振替銀行を代表する大市銀行家に加えて、16世紀中に域外の有力銀行家も参加するようになった。彼らは、国際取引において金融上大きな影響力を持ち、為替相場を決定する立場にあった。その中でも

ジェノヴァ商人・銀行家はカスティリア大市に対して決定的地位を占めるようになる。カスティリア決済大市に従属するセヴィリアにおける商業金融は、強く統制され、カスティリア大市を頂点とするカスティリア地域金融はハブスブルク家の世界政策の重要な戦略的枢軸となった²³⁾。

特定の価値を表示する計算貨幣による国際決済システムとしてはジュネーヴ、リヨンそしてピアツェンツァの支払決済大市を継承したものである。ジュネーヴ大市は、15世紀始めには安定的な計算貨幣エキューによって西ヨーロッパの信用決済の中心に位置するようになり、国際取引の大部分はエキューで計算されるようになった。国際取引に使用される手形はジュネーヴで発行され、計算貨幣エキューが基準貨幣となった。安定的で統一的計算貨幣の導入によって国際商業及び支払信用取引が初めて制度化され、ヨーロッパの他の国際大市においても普及することになった。これらの銀行制度や金融技術の革新はイタリア人の影響は決定的であった²⁴⁾。

計算貨幣による国際的な信用決済システムはジュネーヴにおいて開始された。1マルク均衡重量245gから金貨エキューが64個製造され、この金貨がその後、計算貨幣化し西ヨーロッパの重要な決済貨幣となり、その後の国際決済におけるモデルとなった。ジュネーヴにおける革新はイタリア人商人-銀行家によって主導されたものであり、安定的で統一的な計算貨幣を創造し、国際商業や決済をより単純化することになった²⁵⁾。

22) Ibid., S. 101.

23) Ibid., S. 103.

24) Ibid., S. 99.

25) Ibid., S. 98.

ジュネーヴの決済システムを受け継いだのがリヨン大市である。フランス王の支援の下、16世紀初頭にリヨン大市はフランス最大の商業大市に成長した。その後、商業大市から分離した独自の決済大市が開かれるようになった。そこでの決済貨幣は、最初は1金衡マルクと結び付いたエキュー・デ・マルク（金3.77g）であったが、後にエキュー・ドロル・オ・ソレイユ（金3.08g）が使用されるようになり、200.25gの金衡マルクと結び付くようになる。その後の経過の中でエキュー・ドロル・オ・ソレイユ自体が計算貨幣化し、西ヨーロッパの決済通貨に成長していった。

ここでも、この決済システムを導入したのがイタリア人商人である。彼らはフィレンツェ人商人共同体を中心に、出身都市ごとに共同体を結成し、フランス人共同体、ドイツ人共同体、さらにミラノ人、ルカ人やジェヴァ人等の共同体が協議して大市の商習慣を決定し、共同体ごとに集合決済され、最終的に残った差額がフィレンツェ共同体統領の主宰する集会で決済された。統領はすべての取引を取り仕切り、大市開催日や各手形のユーザンスを決定した。為替相場は当初はフィレンツェ、ルカそしてジェノヴァ共同体が決定した3つの為替相場が存在し、手形決済はそれぞれの相場で行われた。その後、1572年にフィレンツェとルカの相場が統一され、ジェノヴァも参加するようになり1604年には一つの為替相場が適用されるようになる²⁶⁾。

為替相場の決定と同時に利子も決定された。商人共同体は次の大市への債務繰り延べに対して利子を決定し、債務者は改めて手形を発行した。これに対して、1571年教皇ピウス5世は

リヨンにおける利子を教会法上の徴利禁止規定に反する有罪の判決を下した。リヨン市場は、深刻な危機に瀕した。しかし、利子は大市統領の主宰する取引からは消滅したが、半公的な並行市場においてなお維持され続けた²⁷⁾。

リヨン決済大市はイタリア人銀行家によって支配されており、教皇の厳しい監視の中で国際取引の急激な増加をうけて神聖ローマ皇帝の保護下にあったピアツェンツァ決済大市に統合されることになる²⁸⁾。

ピアツェンツァ決済大市は16世紀前半にリヨン大市の次に開かれる大市として成立した。この当時ジェノヴァ人は西ヨーロッパで最も有力な金融資本を有し、フランス王は彼らの金融上の能力をフランス国家信用に利用することを考えていた。その結果、ジェノヴァ人に圧力をかけリヨン大市への参加を禁止することによってその目的を達成しようとした。ジェノヴァ人はフランス王との信用取引を嫌い、フラン王の支配圏の外部で決済大市を開催するようになる。最初はリヨン近郊都市で開催していたが、国王の圧力のために1535年神聖ローマ帝国領であったブサンソンへ移動する。ブサンソン大市は、最初リヨン大市に従属した状態であったが、世紀後半アメリカ産銀のセヴィリアへの集中が生じ、それらの銀取引をジェノヴァが支配するようになった結果、状況が一変し、ブサンソンはヨーロッパの金融中心地として最も重要な位置を占めるようになる²⁹⁾。その後、政治的理由から大市開催地はピアツェンツァへ移転された。

ジェノヴァ大市の全盛期は1579年から1621

27) Ibid., S. 107.

28) Ibid., S. 108.

29) Ibid., S. 109.

26) Ibid., S. 103ff.

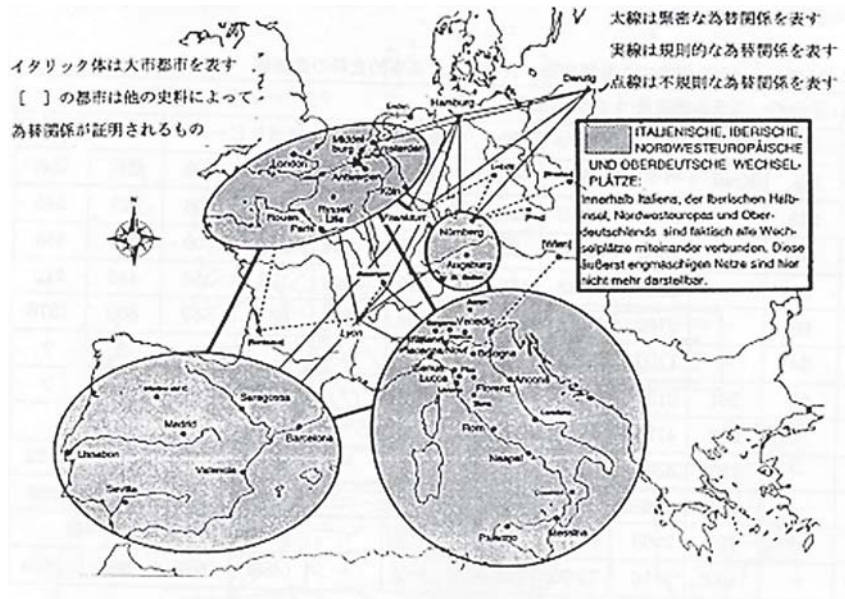


図1 1629年西ヨーロッパ為替ネットワーク

Denzel, “La Practica della Cambiatura” Europäischer Zahlungsverkehr vom 14. bis zum 17. Jahrhundert, Stuttgart 1944, [注31] の文献] S. 531より転載

年でありイタリア人主導の国際金融システムの頂点に位置した。当時の西ヨーロッパにおける国際金融・国際貨幣取引、国際的債権債務の多角的決済、さらには為替相場の裁定取引において中心的役割を果たした。最初はリヨンのフランスの計算貨幣システムに依拠しリヨンのエキュ・オ・ソレイユ “ecu au soleil” (金3.08g) と結び付いた計算貨幣スクード・ディ・マルシェ “scudo de marchi” を使用したが、その後、徐々に独自の計算貨幣システムに移行した。当時の国際決済貨幣として使用されるようになった主要金貨との関係を確立する。決済大市で使用を許される高額金貨を西ヨーロッパの主要商業都市の金貨に限定し、計算貨幣スクード・ディ・マルシェの金価値はこれら貨幣の平均金重量から計算された。スペイン製金貨やアントウェルペン製金貨、ジェノヴァ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ナポリそしてピアツェ

ンツァ製金貨のみが使用を許された³⁰⁾。

ピアツェンツァ為替大市はジェノヴァ人金融業者によって支配されており、1579年から1610年にかけてがその最盛期であった。30人から100人ほどの銀行家 (bancieri di conto) が取引に参加し、最盛期で年平均37.00万エキュの取引額を誇りヨーロッパの主要な金融取引の決済を行った。

2 アムステルダム為替銀行の設立

16世紀ネーデルランドは神聖ローマ帝国領として発展していたが、帝国のスペイン王家と神聖ローマ帝国領への分離と共にスペイン領となった。1557年国王フィリップ2世は良質の高額銀貨フィリップス・ターラー (34.29g, 純度833/1000) を製造し、全ヨーロッパで使用されるようになる。この貨幣は17世紀中

30) Ibid., S. 110.

ネーデルラント北部諸州でも使用され続けた。その後、1583年5月20日帝国勅令の帝国貨幣ライヒス・ターラーがオランダにも導入され、神聖ローマ帝国の貨幣システムへの編入がなされた。1586年にはライヒス・ターラー (rijksdaalder, 29.24g, 純度 888/1000 = 45 Stüver) がオランダで製造され広く流通するようになる³¹⁾。

17世紀初頭のアムステルダムはようやく独立を果たし、貨幣高権も統合され貨幣長官によって統制されていたが、依然として多数の貨幣製造所や貨幣親方が競って貨幣を製造し、錯綜した貨幣流通が展開されていた。内外の貨幣が流通し、小額貨幣は過剰となり、額面のみが刻印された様々な貨幣が流通し、劣化した貨幣や悪造貨幣が大量に流通し錯綜を極めていた。オランダ共和国の新造貨幣である高額銀貨ライヒス・ターラーやレーベンターラー、金貨デッカートやライターも一般に良質であった。しかし、これら良貨は大量の悪貨の流通の中で、輸出用に使用されるか蓄財に利用され、あるいは溶解されて、悪貨に再製造されることになった。都市当局は良貨の打歩を厳禁した。しかしながら良貨の高騰は避けられず、両替商や金融業者マーチャント・バンカー Kassier はこのような状況を利用し、巨額の利益を上げることになった。アムステルダムでは遠隔地商業が地域ごとに特定の貨幣を使用する構造になっていた。バルト海地方やレヴァント地方はドゥカトン金貨が使用され東アジアではパタゴン銀貨が使用された。これらは商業ブエニヒ “negotienpennigen” と呼ばれ、正貨の高額貨

幣の急騰と共に上昇していった。両替商や金融業者は高価値の貨幣を選び取り、バルト海やアジアからの輸入業者に対して高い打歩をとって転売した。良貨の流出が進み、当然国内流通貨幣の品位は悪化した。さらに、商人は手形決済に際して法定相場を超える相場で支払を求められ、とりわけ割引の場合には極端に高い相場で取引を強要されることになった。高額貨幣相場は法定相場を大幅に越えて上昇していった³²⁾。

アムステルダム都市参事会は高額貨幣の相場上昇を抑制するために、手形による債権譲渡を禁止し、手形業者に対して法定相場で手形を取引することを義務付けた。厳しい禁止措置にもかかわらず違法行為が蔓延し、多くは「交差」、つまりあらかじめ高い相場を設定した額面が横行することになった。厳格な禁止措置、「交差」の許容そして最終的に公定相場の引上げという悪循環が、終始進行した。1609年1月31日の法令によって、私的手形業者や金融業者は禁止された。同時にアムステルダム市立為替銀行 (“Amsterdamse Wisselbank”) の設立が宣告された。この銀行は都市における唯一の金融業者であり貨幣両替業者として活動することが期待された。アムステルダムの例に倣って少し遅れて、都市ミッデルブルク (1616年)、デルフト (1621年) そしてロッテルダム (1635年) で為替銀行が設立された。しかしながらアムステルダム銀行だけが国際的機能を有する銀行となった。アムステルダム為替銀行の成功はドイツにも大きな影響を及ぼした。ちょうどドイツではキッパー・ヴィッパーインフレーション時代にあたり、小額貨幣や悪貨の大量流通の結果、悪貨や詐欺・欺瞞、即ち偽造貨

31) Markus A. Denzel, “La Practica della Cambiatura” Europäischer Zahlungsverkehr vom 14. bis zum 17. Jahrhundert, Stuttgart 1994, S. 400.

32) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O., S. 128.

幣や良貨の選好や買占めが横行した。ハンプルク商人の間でアムステルダムの事例に対する熱烈な導入機運が生じ、1619年3月2日同様の為替銀行が設立された。少し遅れて、ニュルンベルクでも1621年8月10日ニュルンベルク為替銀行が設立された³³⁾。

銀行を設立した都市当局や商人団は主として安定した計算貨幣の創造による決済機関を目指していた。そのために、これまで知られていた決済システムや銀行システムの機能を統合し、一つの巨大な決済機関を設立することに成功した。イタリア公立銀行・多角的決済システムとしてのカスティリア大市・ジェノヴァ決済大市の計算貨幣による国際決済大市という3つの機能が集大成されることになった³⁴⁾。

アムステルダム為替銀行が達成した新たな革新は、当時成立しつつあるオランダ共和国経済圏の存在を前提に域外決済貨幣と域内決済貨幣を抽象的な計算貨幣銀行貨幣バンコ・グルデンで統合した点である。初めてヨーロッパ大の多角的決済システムを確立するとともに、為替手形の引受信用への転換を通してオランダ共和国内部の広い範囲の商取引の信用決済を可能にした。600グルデン〔1643年以降300グルデン〕を超える高額取引はすべてアムステルダム為替銀行決済が強制され、加えて、引受信用による手形発行は広く共和国の内外の商人に必要な信用を供与し、手形割引での銀行預り証や支払指図証での支払等によって大部分が現金を使用しない信用取引として決済することが可能となった³⁵⁾。

ところで、銀行設立と共に実施された両替商

やマーチャント・バンカーの両替業務及び出納業務の禁止措置は1621年公式に取り消された。彼らは、ネーデルラントにおける預金・振替・割引制度において重要な役割を果たすことになる。商人は彼らの引受信用によって手形を発行することができた。とりわけ、マーチャント・バンカーは内外の商人に対して価値の安定した銀行貨幣によって手形を発行する機会を与え、西ヨーロッパ大の取引の決済を可能にした。外国商人もこの信用を享受し、アムステルダムのコルレス先、マーチャント・バンカーの引受によって手形が発行された。引受信用には多くは0.5から0.3%というごく小額の利子しか課されず、こうして引受信用はあらゆる取引に必要な貨幣を創造することが可能となった。一部のアムステルダムの大商人も手形業務を行うようになり、その後、彼らの多くは国際的に著名な銀行家に発展することになった。彼らは引受信用業務と共に当座貸越や手形割引に際しても信用を供与し、アムステルダム為替銀行を通じて近代的預金・振替・割引銀行制度を確立することになる³⁶⁾。

オランダ内外の主要な商取引をアムステルダム為替銀行の銀行貨幣グルデンによって決済することが可能となり、これまで悩ませていた高額貨幣の為替相場の急騰はひとまず収まることになった。主要な高額貨幣は銀行決済や金融業者の信用取引の準備金として使用され、その結果、高額決済貨幣と小額実体貨幣の一定の分離が進行し、小額貨幣の貶質による混乱は依然として続いたがネーデルラントにおける商業活動に悪影響を及ぼすことはなくなった。完成した中央銀行を伴う近代的な貨幣金融制度は19世紀を待たなければならなかったが、アムステル

33) Ibid., S. 129.

34) Ibid., S. 133.

35) Ibid.

36) Ibid., S134.

ダム為替銀行はこのような近代的貨幣金融システムの外枠を生み出すことになったと考えられる。

アムステルダム為替銀行は後に見るように、当座貸越を禁止し信用供与は公信用のみに限定し、近代銀行の重要な機能である預金に基づく信用創造機能は発揮し得ない規則となっている。しかしながら、銀行の当座勘定は多くのマーチャント・バンカーの準備金の機能を果たし、為替手形の引受信用授与や預金貨幣による信用授与の基盤となった。従って、アムステルダム為替銀行はその外業部に信用創造機能を持つ機関を有し、銀行システムとして信用創造機能を発揮し得たと考えられる。

アムステルダム為替銀行では600グルデン以上の取引は銀行で決済することを市条例で決定し、銀行での相殺や振替取引の手数料は取らなかった。銀行はできるだけ広範囲の取引を銀行決済に編入し、商業取引決済の価値の安定を図った。当初、1ライヒス・ターラー＝2 1/2 グルデンとされ、バンコ・グルデン Gulden Banco は神聖ローマ帝国貨幣法に則って導入されたが、結果的には銀行貨幣・為替貨幣“Wissel-Gehlt”の性格もつ純然たる計算貨幣となった。その後は実勢相場で貨幣価値が決定されることになった。高額貨幣ライヒス・ターラー、レーベントラー、パタコンやドゥカトンの相場よりも5%から25%高めに設定された。このように流通貨幣と銀行貨幣の二重構造が成立することになる。例えばパタゴンは日常の市場では50 シュテュヴァの相場で流通する一方で、銀行の帳簿上の貨幣としては48 シュテュヴァの相場で記載された。この差が為替相場として広く西ヨーロッパの市場取引を規定することになった。共和国外から持ち込まれた貨幣は、高額貨幣に関しては市場では法定貨

幣と同じ価値として流通したが、銀行貨幣に換算する場合には本来の減価した価値として評価され、銀行貨幣バンコ・グルデンはヨーロッパの決済貨幣として使用され、価値尺度として機能することになる。このような二重構造によってネーデルラントでの貨幣流通は安定を見ることになった³⁷⁾。こうして、国際取引は為替手形で、国内取引は支払指図証によって銀行決済され、これらの価値標章は裏書割引されて流通し、信用貨幣と実体貨幣の流通圏の分離を果たすことになる。卸売商業の主要部分がアムステルダム為替銀行によって決済されることになり、ここでの価値決定が市中価格の決定に強い影響力を持つことになった。かくして、歴史上初めて国際価格決定と国内価格の決定が直接結合した市場価格メカニズムが働くことになる。しかしながら、小額貨幣の貶質による市場での価格の混乱は依然として続き、小額貨幣問題が最終的に解決されるのは1694年の貨幣改革を待たねばならなかった³⁸⁾。

以上のように、アムステルダム為替銀行は銀行貨幣グルデンの創造によって、国際的決済貨幣と同時に域内決済貨幣も創造し、同時に域内貨幣流通を安定させることに成功した。そのためには、域外・域内の主要な商取引の決済を最大限マーチャント・バンカーを下位機関として銀行による信用決済に集中させる必要がある。それを可能にしたのが、引受信用に基づく手形や支払指図証の発行であり、預り証やその他の価値標章による手形割引である。加えて、銀行による公信用の授与や定期金、年金さらには市の出納局としての機能などが加わり、共和国内

37) Ibid., S. 132. Denzel, a. a. O., S. 324.

38) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O., S. 130.

の主要な決済が為替銀行の銀行貨幣バンコ・グルデンの価値に結合され、流通貨幣の価値減価の影響をほとんど受けずに取引が可能となったと考えられる³⁹⁾。

銀行は公式には信用授与を行わないことになっていたが、1616年以降連合東インド会社（VOC）に対する信用授与を開始し、さらに1625年以降はアムステルダム市に対する信用供与も行うことになる。市は銀行に対して50.00から9.00.00グルデン、銀行年収益の四分の一の積み立てを要求し、それを自らの金庫として使用した⁴⁰⁾。

さらに、銀行は設立当初から貴金属取引にも携わり、貨幣両替業務と共に銀行の大きな収益源となった。銀行は最終的に1683年に利子付きの預金を受け入れることによって銀行機能の飛躍的向上を果たすことになった。この場合の利子は預金者が支払うことになる。金貨で0.5%、銀貨で0.25%の支払に対して預金者は預り証Recepisを授与された。この預り証で他の債務を支払うことが可能となり、預り証を銀行で換金することができた。こうして、為替銀行の預り証や手形さらには支払指図証は裏書によって譲渡可能であり広範囲に流通し、銀行券に近い存在となった⁴¹⁾。

以上のような銀行の機能によって銀行貨幣バンコ・グルデンは振替や相殺、さらには引出において価値の安定した貨幣として機能すると同時に、あらゆる貨幣に両替が可能であった。その結果、アムステルダム為替銀行の銀行貨幣はヨーロッパ金融システムにおける準備金としての機能を果たすことになった。こうして、

アムステルダム為替銀行は順調な発展を遂げた。設立直後の銀行の当座勘定口座所有者数は7.30名であったが、60年代には約20.00名に達した。フランス軍が侵入した直後の1672年にはパニックとなり預金の引出しも見られたが、その危機を乗り越えることによって信頼は一層強化された。1700年には銀行の口座所有者は27.00名を数え、20年後には29.00名という最高水準に達した⁴²⁾。

アムステルダムのマーチャント・バンカーや銀行家は公信用の授与においても大きな役割を果たすことになる。彼らは保険や公信用授与や証券業務に携わり、巨額の資金を取引し為替銀行を通じて決済することになった。アムステルダム為替取引所や証券取引所で取引業務を行い、17世紀の中葉までにアムステルダムは世界的な金融の中心地となった。こうして、オランダ国民の高い預金率が実現し、資本が潤沢に蓄積されるとともにオランダ国債の利率は極端に低下した。利率は8.33%(1600年)から、6.25%(1611年)そして5%(1640年)に低下し、さらに1672年以降利率は3%から3.75%の間を変動し18世紀の初めには2.5から3%にまで下がることになった。ちなみに、イギリス国債の利率1624年10%、その後徐々に低下、6%(1651年)、5%(1714年)であった。

II 帝国都市ニュルンベルクの発展

1 都市ニュルンベルク成立と発展

都市ニュルンベルクは、皇帝ハインリッヒ3世の帝国政策の一環として建設された都市である。1040年頃にハインリッヒ3世は帝国森林バン領域内に城塞（ブルク）を建設し、開墾を

39) Ibid., S. 133.

40) Ibid., S. 132.

41) Ibid., S. 132.

42) Ibid., S. 131.

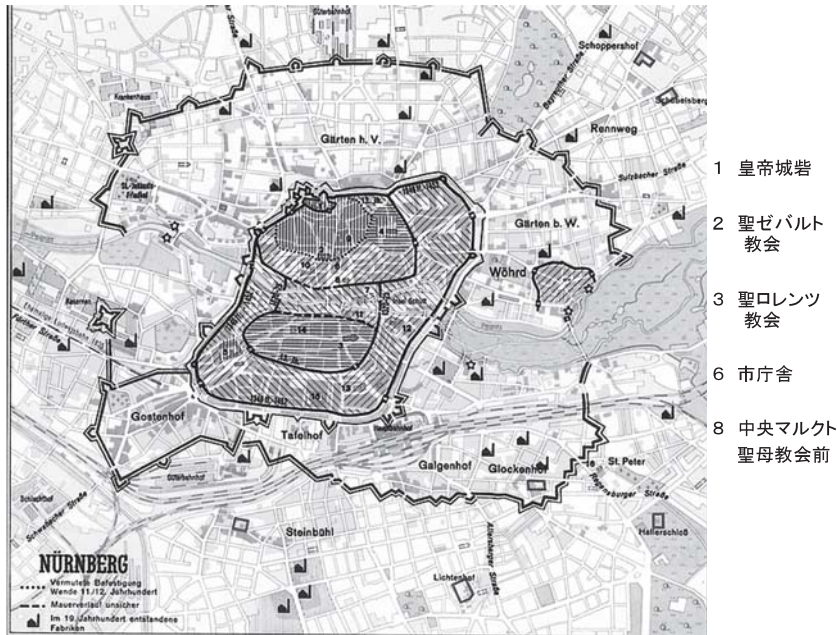


図2 都市ニュルンベルクの発展

Spindler, a. a. O., S. 45.

始めた。城砦の麓に商人定住地を建設し，早くも1065年にはニュルンベルクは大規模な王領地管理の拠点となり，ブルクは皇帝宮殿となった⁴³⁾。

皇帝オットー4世は1209年に始めてニュルンベルクで帝国議会を開催した。1356年にはカール4世によって金印勅書が発布され，ドイツ皇帝が選出された後の最初の帝国議会はニュルンベルクで開催すべきことが決定された。13世紀中には商業活動を行う自治的な市民支配権力が成立しており，1219年には帝国直属の特許を獲得し，中世後期から近世にかけて最大の帝国都市に発展した⁴⁴⁾。12世紀の初め以来ニュ

ルンベルクはヨーロッパ全土で関税免除特権を獲得した。1332年ニュルンベルクはドイツ内外62の都市との間で関税免除特権条約を締結したが，このような成果は，西部さらには南部のこれまでの商業中心地（ケルン，マインツ，レーゲンスブルク）の優位を覆すために帝国によるニュルンベルクに対する優遇策によるものであった⁴⁵⁾。この間，従来の慣行であった大市による商業から16世紀後半には新たな慣行となった商品取引所による取引と貨幣資本取引所の設立に向かった。

都市の市政は参事会によって担われていた

43) Max Spindler (hrsg.) Bayerischer Geschichtsatlas, München 1969, S. 125f.

44) Norbert Angermann usw. (hrsg.), Lexikon des Mittelalters VI, München 1993, Sp. 1317ff.

45) Jürgen Schneider, Nürnberg und die Rückwirkungen der europäischen Expansion (16. –18. Jahrhundert), in, Hermut Neuhaus, Nürnberger Eine europäische Stadt in Mittelalter und Neuzeit, Nürnberg 2000, S. 293.

が、1318年最初の記録が残されており、都市参事会は商人代表からなる13名（consules）とかつてミニステリアーレンの出自を有するとみられる参審人身分からなる13名（scabini）の26名が参事会を構成していた⁴⁶⁾。この都市成立期から存在した26人の有力者からなる小参事会と共に、その後経済的に台頭するようになった人々も加えた大参事会が14世紀以降成立してきた。しかし、最初に成立した26人の小参事会員は都市貴族階層を形成し、14世紀中に制度化された都市官職はすべてこの26名の都市貴族集団から任命されたが、それらの一部は民生関係や市政監督官職であり、そのうち特に市場監視や手工業監視を行う市場監督官職が重要である⁴⁷⁾。

1348/49年都市騒擾が勃発したが、この性格についてはこれまで種々解釈されてきているが、帝国内の皇帝権をめぐる対立がニュルンベルク都市支配層の内紛に発展した結果であると考えられている。確かに、多数の手工業者も参加しており、彼らの行動力が利用された面もあったが、南ドイツに見られた一般的なツンフト闘争の域には達していなかった。ルクセンブルク家皇帝対ヴィッテルスバッハ家の対立から従来の都市支配層はこれまで連携してきたヴィッテルスバッハ家から離反しルクセンブルク家皇帝カール4世に接近し、有力な帝国都市として帝国内での特権を獲得していった。これに対して、従来ニュルンベルクはヴィッテルスバッハ家と強い結びつきを持ち、イタリア商業で繁栄していた一部の有力者は、これに危機感を持ち、この取引に関係していた手工業者を巻

き込んで市政の転覆を謀ったとみられている。いったん市政は反乱者の手に落ち、ヴィッテルスバッハ家と結んで参事会構成を大幅にいれかえ、帝国内の姿勢を転換することになった。これにたいして、カール4世の素早い行動は情勢を一気に逆転し、16カ月続いた反乱はあえなく潰え、参事会構成も元に服し、手工業者にはそれまで認められていなかったツンフト結成が認められたが市政参加は認められず、一部形式的に役職や参事会員職が与えられたが、市政の実質的支配は旧小参事会の手委ねられ続けることになった。手工業者は厳しく罰せられ、死刑は免れたが、200名以上が都市から追放された。彼らの職種を見ると金属加工業者を中心に当時最も有力なツンフトの成員であった⁴⁸⁾。

これに対して、蜂起者によって構成された参事会員は、反乱の失敗後、一部数名の都市からの追放がみられたが、多くはほとんど変わらずに市政に参加し続けることになった。彼ら有力者はジッペ的結合によって結束しており、一時的に利害が対立し反乱に至ったが、手工業者を中心にした裁判による判決によって決着が計られ、旧小参事会支配という市政の基本的構造は1806年の帝国都市解体の時点まで変わることがなかった⁴⁹⁾。

反乱後、大参事会（42名）が成立し、1370年にはツンフトの代表も参加が認められ、出納局長3名制となり、1名は手工業者代表が務めるようになった。これらの市政参加者は蜂起に参加しなかった中小ツンフトの代表であり、手工業者の懐柔策であるともいえた。しかしながら、手工業者の出納局長は名ばかりで決定権は常に商人代表の2人によって行使された。こう

46) Peter Fleischmann, *Rat und Patriziat in Nürnberg*, 1. Band, Neustadt 2010, S. 21.

47) *Lexikon des Mittelalters* VI, Sp. 1118.

48) Fleischmann, a. a. O., S. 37ff.

49) *Ibid.*, S. 44.

して、都市統治における有力家系による寡頭支配は変わらなかった。これまでは、有力家系による小参事会中の2名が市長・助役職を担い、輪番制による市政統治を行ってきたが、16世紀には7人委員会による都市統治に移り、市長・助役等の7人の参事会員による市長部局と出納局・銀行局（市場局）・計量局・貨幣局・裁判所の市政の体制が整えられていった⁵⁰⁾。

1363年ドイツ最初の産業調査に基づく「親方一覧」が作成された。それによるとニュルンベルクには当時8部門50業種が存在し、親方が1363名活動していた。この時期から商人による手工業者に対する問屋制前貸支配が開始され、手工業者は帝国都市期において最後まで商人支配に服することになった。参事会は手工業経営の許認可権も有し、市民権を有する親方にそれを授与したが、親方の親族や関係者に特別の配慮をし、寡婦に対する援助も行ったが、あくまでも市場の景況によって認可数が決められ、親方の数が統制されていた⁵¹⁾。前工業化期ニュルンベルク手工業制度における特徴は手工業者がツunft自治を全く認められていなかったことであり、ニュルンベルク手工業は裁判権を持たず、従って自らの法で裁くことができなかった。彼らの代表は自由に選挙できず、参事会の指名であった。参事会の警察部局が手工業者を取り締まる権限を有し、1470年以来、刑事部であった。手工業者の政治的無力と引き換えに参事会の一般民衆に対する家父長的一温情的政策がなされ、参事会は食料品価格の統制などを行うことによって手工業者の生計を保

証した⁵²⁾。

16世紀中に問屋制前貸体制は一層発展し、17世紀に至っても商人による手工業支配は続き、中小商人の自由な発展も抑制され、商人の手形や支払指図証による信用取引の範囲が限定されることになった。これは近世北イタリア都市の市場構造に近似し、先に述べたような北西ヨーロッパの新しい市場構造とは異なるものであった。

卸売商業を中心とするマルクトにおける取引は、商人代表である市場取締によって自治的に運営された。市場開催や他市場訪問、さらには商業および手形等の慣行は商人の自治的団体の形成と共に自主的に決められていった。その上で、都市は商品仲介業者を任命し、彼らに2週間ごとに市中価格〔都市計算貨幣建〕の申告を命じ、為替仲介業者の任命と共に市場の実勢を尊重しつつ都市当局が決定していった。市場取締による市場仲裁裁判において銀行と商人との紛争を調停したが、最終審はあくまでも都市裁判所であった⁵³⁾。

1560年2月9日市場取引に参加している60名の商人が市参事会に対して「取引所における取引は時計に則って1年を通じて朝11時から夕方5時までとすること」という陳情を行った。ここに初めてニュルンベルク卸売商人が職能団体として登場することになった。これがニュルンベルク商工組合理事会の証書の始まりであり、その名前は今日まで伝えられニュルン

50) Ibid., S. 62ff.

51) Ibid., S. 38f. 1363年の手工業調査の結果については資料2のニュルンベルク市行政の項を参照。

52) Hironobu Sakuma, Die Nürnberg Tuchmacher, Weber, Fäber und Bereiter vom 14. bis 17. Jahrhundert, Nürnberg 1993, S. 2.

53) M. Diefenbacher, R. Enders (hrsg.), Stadtslexikon Nürnberg, Handlung und Kaufmannschaft S. 402f. Fuchs, a. a. O., S. 46ff.

ベルク商工会議所として存続している⁵⁴⁾。

取引所設立と同時に取引所規則が制定され、取引所支配人と取引所長官が任命された。支配人は取引参加者を代表し、彼らの要望を代弁する立場にあった。取引所長官は漸次行政官であると同時に裁判官の性格も有するようになった。彼は郵便制度や運輸制度をも監督するようになり、1621年にニュルンベルク銀行が替が設立されるとその地位は銀行局に引き継がれ銀行の監督が行なわれた⁵⁵⁾。

ここで、ニュルンベルクで活躍したイタリア系ルマゴ商会の金融活動を検討することによって西ヨーロッパにおけるニュルンベルクの地位を考察してみたい。このルマゴ商会は、後に見るニュルンベルク銀行の設立からの3年間売上第一位であり、唯一1622/23年に100万グルデンの上台を達成し、1,23.37.86グルデンの売上高であった。オクタヴィオ・ルマゴは16世紀末のニュルンベルクにおける最も有力な代表者であった。彼は1596年外国人保護税を現金で150グルデン課されている⁵⁶⁾。

三十年戦争のこの時期帝国都市ニュルンベルクは、フランスから60万グルデンに上る軍税支払を要求されていたために、都市税の引き上げによってそれを調達しようとした。その結果、外国人保護税の引き上げや住民に対する追

加税の徴収が実行された。ルマゴは市民権を持たなかったので、保護税に関して増税されることになった⁵⁷⁾。

フランス王ルイ13世は全権使節デウ・ラ・グランジュをニュルンベルクに派遣し軍税支払いを要求した。ラ・グランジュはルマゴの協力によってオランダやスイスでの政治活動の資金を調達しようと考えていた。フランスの戦費総額は400万フランにも達し、このような巨額の資金はルマゴのような巨大商社の国際ネットワークがなければ振替決済できなかった。ニュルンベルク市参事会はフランスの要求を無視できず、ルマゴに対する外国人保護税の引き上げと追加税の徴収を放棄する代わりにスエーデン王に対する60万グルデンの信用授与をルマゴに転化した。スエーデン王はルマゴからフランス・リヨンでこの金額を調達し、6%の利子で返済することが決定された⁵⁸⁾。

このように当時17世紀は重商主義国家間の戦争が常態化し、ドイツも巻き込まれることになったが、とりわけ三十年戦争は最大のものであり、膨大な戦費を要しそれらがこのような各地の有力商人によって融資されたが、それらは国際為替手形ネットワークを通じて融資された。

2 ニュルンベルクにおける貨幣制度の発展

ドイツ中世商業取引に関する支払単位は本来計算上の単位である銀貨幣プント(libra)であり、小額取引では240ペニヒの価値で換算されたので、各ペニヒは1銀重量プントの240分の1の純重量を有することになった。ドイツにおいて貨幣制度の統一を目指す試み

54) Stadtsarchiv Nürnberg (以後StadtANと略記する) E8 Nr. 572.

55) Richard Ehrenberg, Die Nürnberger Börse, in, Mitteilungen des Vereins für Geschichte der Stadt Nürnberg, 8. 1889. S. 72f.

56) Rolf Walter, Geld-und Wechselbörsen von Spätmittelalter bis zum Mitte des 17. Jahrhunderts, in, Hans Pohl (hrsg.) Deutschen Börsengeschichte, Frankfurt am Main 1992, S. 55.

57) Ibid., S. 56.

58) Ibid., S. 57.

は、帝国国家体制の欠陥から再三にわたって挫折してしまったので、実体貨幣のペニヒ当たりの銀重量は非常な変動をきたし、計算貨幣としての1重量プフント=240ペニヒの銀純重量と等価であるという観念は単なる願望に過ぎなくなった。それにもかかわらず、比較的高額のペニヒ額での取引は支払単位として便利な240という数字に固定されることになり、各240ペニヒが1プフントに値するという原則の下ペニヒ貨も計算貨幣化し、取引がおこなわれた⁵⁹⁾。

その後、14世紀に入ってシュヴェービッシュ・ハルの帝国貨幣製造所が長期間にわたって良貨を製造し、このヘラー貨（以後hlを略記）は広く流通したので、14世紀後半には多くの南ドイツ諸都市においてヘラー貨によって計算するようになった。しかしながら、このヘラー単位も同様に計算貨幣化し、保存されている最古のニュルンベルク市会計帳簿の基準貨幣として計算貨幣となった。都市出納局の歳入歳出に関わる金貨銀貨はすべてこの貨幣に換算して記帳された⁶⁰⁾。

14世紀80年代に至り、実体貨幣ヘラー貨の偽造が横行し、当初の銀重量の八分の一にまで貶質し、4ヘラーが1ペニヒにも値しない事態となった。そこで、都市ニュルンベルクは貨幣改革を行い、これまでの1プフント (1b^{alt}) = 30ペニヒから1新プフント (1b^{neu}) = 120ペニヒとしヘラー貨の銀重量を4倍に引き上げた。この計算貨幣は都市帳簿において16世紀の60年代まで行われた。ところが、16世紀

の60年代の終わり頃からこの新ヘラー貨と並んで領邦法定貨幣グルデンが第二の計算貨幣として採用されるようになった。新ヘラーが急速に価値を減じつつあったので、計算貨幣プフント・ヘラー貨が市場取引から排除されていき、一般の商人帳簿でも計算貨幣グルデン貨幣が用いられるようになり、都市当局もこのグルデンを計算貨幣として受け入れていった。1469年の都市帳簿では決算合計のみがヘラーに換算して記載され、他方で個々の勘定項目額や集計額はヘラーとグルデンは同格の計算貨幣として使用された⁶¹⁾。

このような二重使用は帳簿運用上非常に不都合が生じたので、1560年がその最後となった。以後、ヘラーは使用されなくなり、グルデンが唯一の計算貨幣の地位を獲得した。このグルデン貨は帝国都市統治権が崩壊し、さらにその後の第二帝政成立時期までその地位を維持することになった。このような長期の使用はグルデンの完全な計算貨幣化によって達成ものである。最初、金貨グルデンは広く使用されグルデンの金含有量とヘラー貨やペニヒ貨との関係もあったが、急速にその関係が消滅し、さらに金貨自身の発行が減少していったためにグルデン貨は完全に計算貨幣化し、ドイツ地域において計算貨幣グルデンとペニヒ貨の関係によって地域の商取引を遂行し帳簿記載する慣習が16世紀中に成立した。グルデン貨の価値はペニヒ貨の価値によって決定され、さらにこれらグルデン・ペニヒ体系の実体貨幣との相場によって実際の支払や商取引が実行されていったと考えられている。為替手形は多く計算貨幣建てで行われ、西ヨーロッパ各地の計算貨幣による価値決定が反映され、地域間の取引が円滑に

59) Paul Sander, Die Reichsstädtische Haushalt Nürnbergs dargestellt auf Grund ihres Zustandes von 1431-1440, Leipzig 1902, 1Band, S. 742.

60) Ibid., S. 743.

61) Ibid., S. 744.

遂行されたと考える⁶²⁾。

ニュルンベルクでは1グルデン=252ペニヒの計算関係が成立し、当時地域ごとに異なる計算貨幣グルデン貨の価値によって各地域経済圏の価格体系が表現されることになり、商人たちはこの換算によって即座に取引のための知見を得ることができたと考えられる⁶³⁾。

ところで、16世紀の20年代以降になるともう一つの別の計算貨幣体系が使用され始めることになった。これは地理上の発見による新大陸やアジアからの銀の流入によって金貨グルデンに代わる高額銀貨ターラーの使用によってもたらされたものである。このターラーの60分の一に当たるクロイツァーも製造され、こうしてターラー—クロイツァー計算貨幣体系が成立することとなった。この間、ターラーもクロイツァーも急速に貶値したために1対60の関係はグルデン体系と同様に完全な計算貨幣体系となった⁶⁴⁾。

一般に北ドイツではターラー体系が使用されマイン川を境界としており、それより南ではグルデン体系が使用されたが、1グルデン=1ターラーとして、1グルデン=60クロイツァーの関係も成立した。こうして、クロイツァーを通してグルデンとターラーの計算貨幣体系が結合され、ニュルンベルクでは徐々にハンザ地域との取引を活発に行うようになり、ターラーのクロ

イツァーによる建値が重要な問題となってくる⁶⁵⁾。

特に、アウグスブルクを中心とする諸都市が貨幣同盟を結成しターラーの高い価値での導入に反対の態度をとった。これに対してニュルンベルク市参事会は早くから北ドイツ商業に従事し、ライプツヒやフランクフルトとの取引も盛んであったので、いち早くターラーを受け入れることになった。南ドイツの多くの貨幣領主は銀貨ターラーが60クロイツァー以上に上昇することは認めず、実際の市場相場は68から70クロイツァーであったので、彼らの態度はターラーを禁止するにも等しかった。その後、アウグスブルク貨幣同盟は崩壊し、1542年のトルコ税の徴収はドイツにおけるターラー製造を促進することになった⁶⁶⁾。

1623年以降都市帳簿で使用される計算貨幣グルデンは通貨60クロイツァーを表す計算貨幣となった。さらに、従来存在した20分の一グルデン(グロッシェン)や240分の一のヘラーに分解され、計算上用いられるようになった。

近世ニュルンベルクにおける計算貨幣体系は以下のとおりである。

1 Gu = 20ß = 240hl

Gu=Gulden ß=Gröschchen

Pf=Pfennig kr=Kreuzer

1570年以降：1 Gul=252Pf

1623年以降：1 Gul=252Pf=60kr

1680年以降：240Pf=60kr

他のすべての通貨価値、とりわけ外国の金貨、高額銀貨やターラー貨そして小額通貨はこの貨幣システムによって換算されることとなった。その結果、帳簿に記載された金額を実際

62) Denzel., a. a. O., S. 231.

63) Bauernfeind, a. a. O., S. 45. 例えば、ライン地方では210ペニヒ、バーデン・ヴュルテンベルクやヴュルツブルクでは168ペニヒ、バイエルンでは252、シュトゥラスブルクでは126ペニヒであった。

64) Hansheiner Eichhorn, Der Strukturwandel im Geldumlauf Frankens zwischen 1437 und 1610, Wiesbaden 1973, S. 173ff.

65) StadtA N, E 8 Handelsvorstand Nr. 1522.

66) Ibid.

の経済的価値に換算しようとする場合には、ヘラー、フェニヒやクロイツァーの価値ないしはグルデンの価値だけを確認すればよいことになる。

IV ニュルンベルク市立為替銀行の設立

1 為替銀行設立の背景

1610年から1629年までの時期のヴェネツィアやアムステルダムの史料からニュルンベルクがアントウェルペンを凌駕し、当時両都市の最も重要な取引先であったことを示している。17世紀初めの国際金融資本を代表する人物たちによるニュルンベルクを中心とする巨大なネットワークの構築は、ニュルンベルクの意義がこれまで一般に過小評価されてきたことを示している。17世紀初めのドイツにおいてニュルンベルクはヨーロッパドイツ金融資本の稠密なネットワークの重要な結節点として機能し、公立銀行が設立されたハンブルクと並ぶ都市であった。ニュルンベルク銀行の口座数や取引額はハンブルク銀行のそれを凌駕しており、これまで言われてきたように前者は後者にかなり劣るという見方は近年修正されつつある⁶⁷⁾。

このような人口・商人数を前提とする大規模な金融ネットワークとそこから結論される銀行所在地としてのニュルンベルクの中心地機能が、近年包括的にランバート・ペータースの研究によって明らかにされた。先に見たルマゴ商会を中心とするイタリア系商社の活動や、ネーデルラント出身者やイギリス出身の商人の活躍も伝えられており、銀行の記録には広範な中堅企業の活躍も認められ、当時ドイツ最大の商業

金融中心地であったことが理解される⁶⁸⁾。

16世紀初めに、オスマン・トルコの脅威を背景に帝国改造が計画され、皇帝と帝国議会の妥協の下、帝国クライス制度が導入され、貨幣統一を目指す動きがみられた。帝国クライス制度は帝国防衛を目指しクライス軍の創設とその帝国防衛への提供、さらに軍事費の支出の公正を期すための帝国貨幣法の制定に至った。16世紀は帝国貨幣法が一定程度効力を発揮し、貨幣の安定がみられた時期である⁶⁹⁾。こうして、帝国内に帝国グルデンを決済貨幣とする市場経済の発展がみられた。ところが、16世紀末を迎えて、商業革命に伴う価格革命が進行し、徐々に小額貨幣の減価、高額貨幣相場の高騰が進行していった。その理由は帝国貨幣法に起因していた。帝国貨幣法は高額貨幣の統一に限定され、小額貨幣政策は領邦に委ねられた。西ヨーロッパにあふれ出た新大陸の銀に対して神聖ローマ帝国における貨幣製造用貴金属の相対的不足の中で、小額貨幣需要をいかに満たすかが、当時の領邦高権の緊急の課題となった。その結果、小額貨幣の価値以下での製造が蔓延し、貨幣減価が始まると利益を目当てに小額貨幣の価値以下での製造が連鎖的に進行した。こうして多くの貨幣高権所有者は小額貨幣の価値以下での製造に参加し、ついには銅貨の流通がみられるようになり、極端なインフレーション、キッパー・ヴィッパーインフレーション(1618-1623年)が惹起することになった⁷⁰⁾。

帝国改造と共に帝国の貨幣高権は帝国貨幣法により各クライスに授与され、品位と量はクライスの管理となった。各クライスは正規の貨幣

68) Ibid., S. 52.

69) Bauernfeind, a. a. O., S. 45f.

70) North, a. a. O., S. 97ff. Sprenger, a. a. O., S. 111ff.

67) Peters, Der Handels Nürnbergs, S. 46ff.

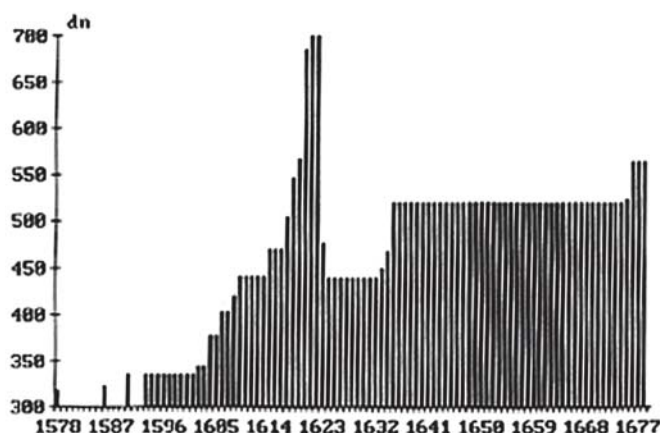


図3 1578-1678年ニュルンベルクにおけるグルデン相場
Bauernfeind, Materielle Grundstrukturen., S. 50より転載

製造所の他に、新たに貨幣製造所を建設し貨幣親方に貸貸、貨幣高権領主の委託による小額悪貨製造を黙認し、大量の悪貨を流通させていった。これら闇貨幣製造のまん延によって多くの貨幣製造所は逼迫した貨幣用金属銅を巡る競争に走り、製造コストの高騰を招き、一層の貨幣貶質を招くことになった⁷¹⁾。

三十年戦争の開始期に小額貨幣の貶質が未曾有の規模で進行した。銀を産出する領邦君主、ブラウンシュヴァイク＝ヴォルフェンブッテルやザクセン大公さらには皇帝直轄領オーストリアにおいて戦争及び軍備資金の獲得のために大量の貶質貨幣を製造流通させた。皇帝の命令により1621年ベーメン大公カール・フォン・リヒテンシュタインがクッテンベルクを擁し大量の小額悪貨を製造しはじめた。1622年になると皇帝側戦争企業家アルブレヒト・フォン・ヴァレンシュタインの銀行家として活動していたオランダ人商人ハンス・デ・ヴィッテは貨幣シンジケートをハンス・デ・ヴィッテ、バッセヴィ、ベーメン大公リヒテンシュタインそして

ヴァレンシュタインとの間で結成し、皇帝との契約によってベーメン、メーレン、ニーダー・オーストリアのすべての貨幣製造所を貸与されることになった。彼らは数千万グルデンの銀貨を製造し、大量の小額悪貨を神聖ローマ帝国内に供給した。これによって、シンジケートの参加者はそれぞれ1千万グルデン以上の利益を得たと推測されている。その結果、ドイツ史における最大のインフレーション、第一次世界大戦後のインフレーションと比較されるインフレーションが生み出されることになった。高額貨幣相場は計算貨幣建てで1帝国グルデンが16グルデンにまで高騰し、一年間で物価が6倍にまで高騰した⁷²⁾。

キッパー・ヴィッパー期が一般民衆にとってどのような影響があったかは、同時代人のグスタフ・フライタークの「ドイツの過去の歴史像」に詳しく述べられている。「大部分一般庶民がキッパー期の最悪の結果を負担させられることになった。彼らは勅令によってキッパー貨幣の受け取りを強制され、その使用においては

71) Sprenger, a. a. O., S. 113.

72) North, a. a. O., S. 104.

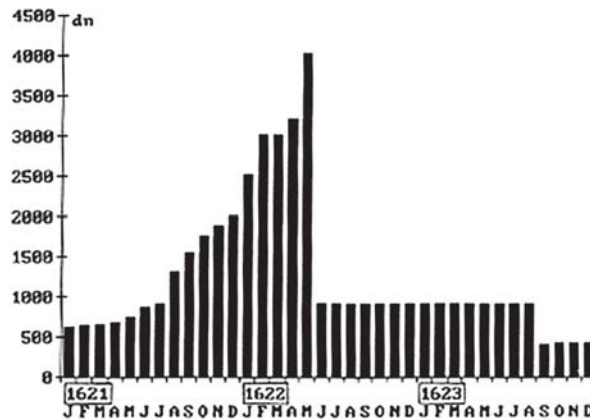


図4 1621-1623年ニュルンベルクにおけるグルデン相場
Bauernfeind, a. a. O., S. 51 より転載

価値低下した購買力しか与えられなかった」⁷³⁾。

その後、1621年の為替銀行設立と同時に貨幣改革が漸行され、貨幣価値の引き上げが果たされ、インフレーションの終息がみられことに

73) Gustav Freytag, *Bilder aus der deutschen Vergangenheit*, Bd. 2 Hrsg. von Heinrich Pleticha, München 1987, S. 302. 以下さらに次のように続いている。「30年戦争の開始とともに生じたあらゆる恐怖の中で、国民にとって貨幣の突然の減価ほど不安なものはいなかったと思われた。被害を被った人々の気持ちからすれば、この貨幣をめぐる災厄は、筆舌につくしがたいほどにはなはだしいものであったが、それは長年の陰鬱な雰囲気の中で突如襲ってきたように思われたからであり、いたるところで、憎むべき害悪をもたらし、家族の間で不和を、債権者と債務者の間に憎しみと騒乱を、そして飢餓と貧困と極貧、さらには倫理の崩壊をももたらしたからである。尊敬すべき市民を賭博師や飲んだくれさらには夜盗に落ちたごろつき兵に変え、聖職者や教師を彼らの職から一掃し、豊かな家族を零落させ、全ての統治機構を絶望的な混乱に陥れ、稠密な人口を擁する国土の都市の住民を餓死の恐怖にさらすことになった」。

なった。戦時においてこのようなことが生じたことは非常にまれなことであったが、その原因は貨幣貶質が長期的には国家財政に損害を与えることが知れ渡ったためであると考えられる。当時、悪貨の相当部分が公租として国庫に還流し、その結果、大多数の国で1623年中に悪貨の価値を急速に減価させていった。ザクセンでは悪貨が回収され、その所有者は貨幣製造所から価値の高い新貨幣で支払われた。ハプスブルク地域・南オーストリアでは、悪貨はその名目価値の13.3%まで減価され、一方バイエルン貨幣は25%まで減価された。帝国都市フランクフルトでもマインツ選帝侯、ヘッセン＝ダルムシュタットとナッサウ＝ザールブリュッケンとの間で共同貨幣製造に合意し、これまでのフェニヒ貨やその他の小額貨幣の流通を禁止し、貨幣価値の回復を図った⁷⁴⁾。

次に問題となったのはキッパー期に発生し、安定期に返済期限のきた債務問題である。ザクセンでは通貨安定の実現と同様に強硬路線が取られ、キッパー期の前であろうと該当期であ

74) North, a. a. O., S. 104ff.

ろうとすべての債権は新貨幣で返済するように規定した。これに対して帝国都市フランクフルトと貨幣同盟を結んでいた諸領邦は公正になされ、債権契約に基づいて債権は「硬貨には同じ硬貨で」の原則で返済されなければならなかった⁷⁵⁾。

ニュルンベルクでもこれら諸邦と同様に激しいインフレーションが襲うことになった。これに対して、都市はクライス貨幣高権を最大限活用し、貨幣審議会議長官の地位を利用し貨幣試験に基づいてクライス内の貨幣流通を統制しようと努めた。資料5にあるように、フランケン・クライスでは貨幣試験ごとに報告書がつけられ、それに則って貨幣価値が決定された。試験までに新たに流通することになったすべての貨幣が直近の帝国貨幣法に則って計量吟味され、特殊な計算式によって貨幣価値が確定された。都市ニュルンベルクの計算貨幣相場が決定され、これらの貨幣を使用した場合の価値尺度が決定され、それによって商品価格が決定されることになった⁷⁶⁾。

17世紀にはいって、ニュルンベルクでも高額貨幣の高騰による物価騰貴がみられるようになり、参事会に対して様々な請願が行われた。資料6にあるように1603年には高額貨幣の市中相場が高騰を見せたのでそれを抑制するために貨幣相場決定命令が出されている。それによると粗悪な貨幣流通によって混乱し、高額貨幣が高騰し、都市内の商取引が停滞し、手形の受取や振替業務が混乱し、遅延していると述べ、市中相場より低い相場を決定し、守ることを命令している⁷⁷⁾。続いて、資料7では1607年に

は54名の商人が請願書を提出し、都市が決定した高額貨幣の相場が高すぎるので引き下げることを要求している⁷⁸⁾。とりわけ、資料11の編みかけ部分のキッパー・ヴィッパー期には貨幣相場は16倍以上に高騰し、物価上昇は激しく、ニュルンベルクでも先のフライタークの描写と同じ現象が生じ、賃金で生活する人々は困窮を極め、都市商業も停滞し、貨幣価値の安定が急務となった⁷⁹⁾。

2 ニュルンベルク為替銀行の設立

ここで、都市ニュルンベルクの金融監督体制と銀行の構成を概観する。

市銀行局には2人の参事会代表（小参事会所属）と2人の法律顧問と1人の書記が配置された。加えて市場取締も選出され、商人代表として都市当局に対する利益代表として行動した。さらに、12人の助役が指名され、商人代表として銀行内で帳簿を閲覧する権利を有し、年度決算に出席する権利を持った。彼らはニュルンベルク市の商人集団の利益を代表し、銀行運営の合法性を監視するのが任務であった⁸⁰⁾。

ニュルンベルク為替銀行自体は頭取が管理を行った。彼の下に設立時は、副頭取、4人の書記、2人の出納係、1人の従業員が働いていた。これら役職者は一定額の供託金を課された。これ他に銀行外業務、つまり料金の徴収や料金表の配布等を行う使用人も採用された。さらに、公証人も一人常駐していた。こうして2時間の営業時間が厳格に監督され厳密な記帳が実行された⁸¹⁾。

帳簿中営業台帳が最も重要であり、この台帳

75) Ibid., S. 106.

76) StadtAN, E 8 Nr. 1509.

77) StadtAN, E 8 Nr. 1488.

78) StadtAN, E 8 Nr. 1521.

79) StadtAN, E 8 Nr. 1506.

80) StadtAN, E 8 Nr. 4213.

81) StadtAN, E 8 Nr. 4188.

に記載されているすべての事項は公正証書の性格を有し、顧客と銀行との取引に関わる記載事項を最初に確定した。銀行内部の部局から部局への貨幣の動きやさらには銀行外の資金の動き、そして給与の支払いは台帳には記載されていない。銀行の授信業務、つまり銀行規則に反する都市金庫との取引も台帳には含まれている⁸²⁾。

1621年8月10日頭取が台帳に最初の祝辞を記入した。取引項目の記載は一般に当時必要と認められるごく短い表現が厳守された。最初の記帳文は以下の通り：

「2/1金庫会計 借方 Gu2.00.00, —P. ハイナリッヒとハンス・ミュッレックは現金で2.00.00グルデンを支払った—」⁸³⁾。最初の番号2は銀行の金庫勘定口座であり、1は顧客の口座番号である。従って銀行の金庫勘定口座2に顧客ミュッレックが現金を払い込み、彼の預金の口座番号は1であった。従って口座番号1の栄誉はミュッレックに与えられたことになる。こうして銀行の当座勘定に口座を有する顧客はすべて通し番号が付され口座が管理された。さらに、この最初の預金の記載は、その日の内に債務台帳に転記された。債務台帳のハイナリッヒ&ハンス・ミュッレックの口座1に貸方記帳され、同時に金銭出納帳の彼の口座1に借方に記帳される。

振替は例外なくグルデンで行われた。グルデンが銀行の計算単位であり従って銀行帳簿体系の計算単位を形成したが、このグルデンは、帝国貨幣法に則り、帝国ターラーと一定の関係、つまり銀行相場で決定された。この計算単位を堅持し、これを市場取引全体の計算貨幣とすることがニュルンベルク為替銀行設立の意義であ

り目的であった。ニュルンベルク為替銀行は、ハンブルクそしてアムステルダム銀行と同様に銀行内の口座から口座への直接振替が認められており、支払手段ないし信用手段としての手形によって決済がなされていたことを示している。

これらの公立為替銀行の最も重要な特徴は、抽象的な計算貨幣・銀行貨幣を導入し、それによってすべての高額取引の決済を強制した点にある。ニュルンベルクでは200グルデン以上のすべての商取引、すべての為替による支払そして利潤目当てのすべての預金は銀行を通じて決済を行わなければならなかった。計算単位は1グルデンが20グロッシェンないしは252ペニヒであった。帝国ターラーは3 1/4グルデンに換算され、1623年9月22日の切り下げ以降は1 1/2グルデンに換算され、インフレーション終息後は1グルデンに換算された⁸⁴⁾。

銀行設立と同時にニュルンベルク市は銀行を通じて大量の小額貨幣を発行した。営業台帳によると3人の親方に対して合わせて46.15.00グルデン相当のターラー銀貨を付与し、それによって47.29.62グルデン相当の小額銀貨の良貨を製造し、銀行に提供したが、その差額が都市の債務となり、親方の銀行口座に合わせて1.24.65グルデンが振込まれた取引が記載されている。こうして、市は銀行を通じて小額良貨を大量に市中に散布したが、その際、一般民衆に対しては小額悪貨と良貨を3グルデンまで市の負担で無償交換し、その他は市中相場で交換した。さらに、商人団に対しては3グルデン相当の小額面の紙幣を悪貨と交換して授与した。その時点での、市中相場1ターラーを4 1/2グルデンで交換することによって、市中の貨幣価値は安定し、小額貨幣も含めて一時的に銀行相

82) Fuchs, a. a. O., S. 144f.

83) StadtAN, E8 Nr. 4233, fol. 1.

84) Fuchs, a. a. O., S. 22ff.

場と市長相場が一致することになった⁸⁵⁾。

銀行内で使用される貨幣は50%まで小額貨幣も認められており、銀行に持ち込まれる貨幣は銀行設立時には急速に良貨が集中し、貨幣価値が安定し、都市領域内と外部では二重価格が成立し、都市内で他地域に先駆けて急速に物価が下落し、一般民衆の保護は達成されることになった。先にみたように、ニュルンベルクでは都市寡頭支配を維持するために手工業者を含む中下層民の政治参加を制限すると同時に、彼らの生活の保証が求められてきた。そのために、食料品価格（ライムギ・バター・塩・肉等）の決定までおこなったが、その際、貨幣価値の安定は不可欠であった。こうして、ニュルンベルク為替銀行にはその課題も求められることになった。この点が、他のアムステルダムやハンブルクと大きく異なるところである。

V ニュルンベルク為替銀行の意義

ニュルンベルク為替銀行はアムステルダムやハンブルクと同様に主として、商人の遠隔地貿易を中心とする卸売商人の決済のための高額貨幣を銀行内に蓄積し、それによって主要な商業取引を決済することによって小額貨幣も含む実体貨幣の流通を統制し、取引の価値尺度を決定することによって価格の安定を目指すものであった。一見するとニュルンベルク為替銀行も全く同じ成果を上げたように見える。しかしながら、両者は基本的その性格を異にしていた。三者の相違を第三表によって比較してみたい。

アムステルダムとハンブルクは近代的決済システムの性格を備えていたのに対して、ニュル

表1 ニュルンベルク・ハンブルク・アムステルダムの人口等一覧

	ニュルンベルク	ハンブルク	アムステルダム
人口	50000人	40000人	120000人
商人人口	665人	540人	1344人
商人比率	1.33%	1.35%	1.12%
銀行口座数	最大700	最大650	最大3000

Peters, a. a. O., S. 21 より作成

表2 銀行決済取引額（クローラー建）

	1621—24年平均額	1619年
ニュルンベルク銀行	8.951.180	
ハンブルク銀行		6.537.014

Peters, Der Handel Nürnbergs am Anfang des Dreißigjährigen Kriegs, S. 64 より転載

ンベルクはその市場構造の前近代性と都市統治のあり方によって中世都市に特有のモラ・エコノミーの性格が発現し、小額貨幣も含む実体貨幣の強制的統合を目指して、貨幣改革を断行し、実体貨幣の大量の発行によって貨幣価値の安定を図り、当初の目的である商取引の価値尺度の決定と同時に、小額貨幣の価値の安定を実現し、物価上昇を抑制し、中下層民の生活の安定と手工業経営の一定の発展を実現することができた。

このように、17世紀の前半においてニュルンベルク為替銀行は一定の安定を見たが、その内実は深刻な問題を抱えていた。具体的に、銀行経営を見てもることによってアムステルダムやハンブルクとの基本的違いが明らかとなる。

三行の相違を一覧表にして掲げてみた。とりわけ重要なのは銀行貨幣と流通貨幣の統合問題である。アムステルダムやハンブルクでは卸売商業の決済を銀行の信用取引によって大部分行い、それによって獲得した圧倒的な価格決定力によって小売商業の価格の安定を実現し、域内経済の価値尺度を決定し、安定的発展の基盤を与えることができた。これに対して、ニュルンベルクではその特有の市場構造から遠隔地貿易を中心とする卸売商業の決済を銀行貨幣による

85) StadtAN, E8 Nr. 4763. Nr. 4764.

表3 三銀行比較表

	アムステルダム	ハンブルク	ニュルンベルク
設立年	1609年	1619年	1621年
国家	共和国	都市領邦	都市領邦
貨幣流通圏	ネーデルラント	ハンザ圏	フランケン・クライス
貨幣高権	ホラント州	都市(クライス)	都市(クライス)
設立形態	市立	市立	市立
銀行強制決済下限	600グルデン	400マルク (1800グルデン)	200グルデン
銀行運営費	科料	科料	手数料
当座貸越	禁止(科料3%)	禁止(科料3%)	禁止(科料10%)
小額貨幣許容率	100%	10%	50%
決済	為替手形	為替手形	手形と現金
銀行経営	発展 (ピーク18世紀)	発展 (ピーク18世紀)	停滞縮小

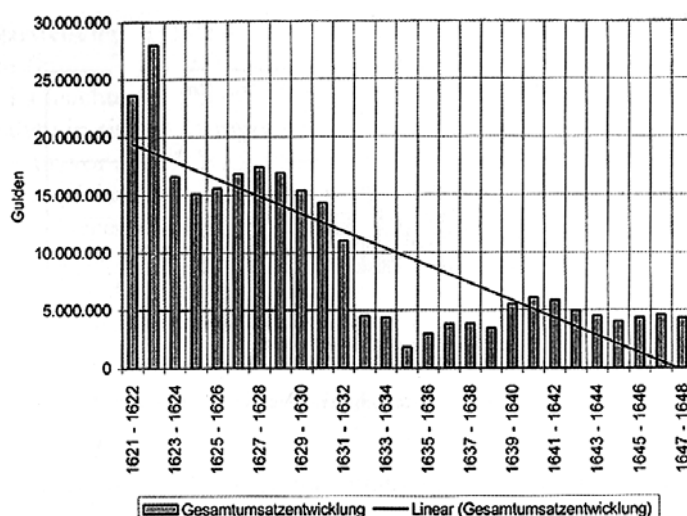


図5 1621/22年-1647/48年ニュルンベルク為替銀行年間総取引額
Peters, Einführung in die Erfassung, S. 88.

信用取引によって決済することができず、実体貨幣の減価が銀行貨幣にまで影響を及ぼす恐れが生じ、その結果、価格は最終的には都市計算貨幣に反映され、銀行貨幣は市場の実態と乖離し、徐々に銀行貨幣は市場の実勢から離れ、別の貨幣相場を建てざるを得なくなる。

ニュルンベルクではアムステルダムとは違って、銀行決済は為替手形や支払指図証に限られておらず、現金や口頭による振替が主流を占め

ていた。そのために、銀行貨幣は商取引の主要部分の決済を担うことができず、価格決定力を持ちえなかった。その結果、小額貨幣の減価は価格に反映され、高額貨幣相場が再び上昇を見せ始めた。この高額貨幣相場は都市貨幣相場には即座に反映せざるを得なかったが、これに対して銀行貨幣は小額貨幣の減価をできるだけ高額貨幣の相場に反映させないように遅らせて相場を建てざるを得なかった。こうして、できる

だけ実体貨幣の価値低下から隔離し、高額貨幣の価値の維持を図ったと考えられる。これに対して、都市計算貨幣相場は小額貨幣の市場への侵入を抑制できず、市場の実勢相場に合わせて建てざるを得ず、価格上昇を抑えることはできなかった。その結果、銀行に預金する人々は高額貨幣を所有する人々に限られ、銀行は上層の人々の資産維持機関に陥ることになった。

まず、資料1にあるように銀行取引は午前9時から11時までの2時間であり、その内前半は手形か支払指図証による信用取引であり、後半が現金支払いや当事者立会による相殺や振替取引であった。フックスの研究によると為替による決済は年間平均100件であり、年平均取引件数100.00件中1%である⁸⁶⁾。ただし、ペータースの研究によると為替や支払指図証による取引は現金や口頭による決済に比べて高額であり、件数以上の割合を占めていたことが知られている。しかしながら、ペータースも認めているように信用決済はニュルンベルクでは副次的意義しか持ちえず、アムステルダムとは好対照をなしていた⁸⁷⁾。その結果、口頭による取引の必要から代理人制度が、他の二行に比べて重要性が高かったと考えられる（資料1の代理人制度の項参照）。

この点は、銀行経営の財政基盤からも理解することができる。アムステルダムでは科料によって経営を支えており、できるだけ取引を銀行で決済することを強制し、違反を強力に取締り、そこから徴収する科料によって銀行経営を支え、信用決済による振替等の手数料は無料としている。これに対して、ニュルンベルクではすべての取引に手数料を課し、その収入によっ

て経営を支えていた。営業台帳を見ると銀行強制違反にはあまり熱心に取り締まっていないことが窺える⁸⁸⁾。

当座貸越の取締に関しては、ニュルンベルクは熱心であり、もし書記が発見した場合には当人と頭取で折半の規定であった。さらに、科料額の当該違反額の10%であり書記は熱心に取り締まったと考えられる。できるだけ円滑は信用決済を促進するためには、あまり厳格な運用は好ましくないと考えられるが、ニュルンベルクではかなりの高額 of 当座貸越に関する科料が計上されている。この点は、アムステルダムではかなり異なっており、科料も3%であり、その収入は銀行の運営に充てられることはなかった。当座貸越の運用は、フックスの研究によるとどの銀行も取り締まりを行っていたが、ハンブルクが最も厳格に取り扱い、毎日残高帳の数値の決済を確定しなければ翌日の営業を開始しなかったと伝えられている⁸⁹⁾。

ニュルンベルクは先にも述べたように都市寡頭支配が強力に維持され、ツンフトの自治が認められず、為替手形や信用取引による決済は限られた商人間でしか認められなかった。裏書や割引は一般に認められていたが、その範囲は限られており、引受信用による広範な商人の参加

88) Fuchs, a. a. O., S. 152ff. 科料はすべて書記と頭取そして参事会代表によって期末に分配される規則になっており、毎年の額もごく100グルデン以下と小額となっている。一年だけ1639年に1059グルデンが徴収されているが、これは特別に刑事局による検挙によって達成されたものである。科料の徴収には商人の強い抵抗があり、当座貸越はできるだけ守られるべきものであるが、時にはそれを避けて多くの商人は銀行外で決済することも多く見られたことが知られている。

89) Ibid., S. 33ff.

86) Fuchs, a. a. O., S. 80.

87) Peters, a. a. O., S. 114ff.

による信用状による決済はいまだ成立していなかった。遠隔地商業を中心とする卸売商業は、現金や当事者による立会によって口頭で決済され、信用状による決済は成熟していなかった。その結果、銀行貨幣の価格支配力は弱く、小額貨幣の減価は価格に即座に反映し、1630年以降取引の急激な減少と共に、物価が上昇を開始し、徐々に銀行貨幣と都市計算貨幣の相場が乖離するようになっていった。

この銀行取引額の減少を銀行そのものの機能を原因とするものであるか、あるいは三十年戦争の激化によるものであるかは諸説が分かれている。確かに、この頃、銀行は30万グルデンという最高額の公信用を都市に与えており、直接的には預金額のうち取引に使用できる額が三分の一減少した結果であることは確かである。しかしながら、数年後に返済されたが、図からわかるようにその後も取引額は回復せず、50年代以降はさらに減少し70年代には特定の商人の資産維持機関となっていったことが知られている⁹⁰⁾。

アムステルダム為替銀行の全盛期は18世紀であり、口座数取引額とも17世紀には上昇し続け、18世紀末オランダ東インド会社への公信用が返済不能となり経営が一気に悪化し1818年には銀行の閉鎖に追い込まれている⁹¹⁾。

一方、ハンブルク為替銀行はハンザ貨幣流通圏における貨幣流通の安定と安全な決済を実現することができた。銀行は為替手形・支払指図証等による口座振替による信用決済が主流であった。振替は無料で行われ、銀行強制違反の料金が銀行経営の費用に充当された。1ター

ラー＝3マルク・バンコ Mark Banko＝16シリングが銀行貨幣・決済貨幣として使用され預金の範囲で多角的決済が実行され、貨幣価値が安定し、流通貨幣との分離が実現し、アムステルダムと同様の為替相場の設定が行われるようになった。18世紀半ばにはハンブルクの貨幣流通量は300万ターラーと推定されるが、銀行年取引額はその20倍にも達し、銀行の発展は頂点に達した。ドイツ統一後も銀行は存続し、1873年ライヒス・バンクの設立（プロイセン銀行の改組）とライヒス・マルクの成立と共に銀行の当座勘定はライヒス・バンクに移管されハンザ地域の信用決済は継続された⁹²⁾。

VI おわりに

以上述べたように、ニュルンベルク為替銀行は当時の市場構造に規定されて、銀行貨幣と実体貨幣の直接統合を目指して設立されたものであり、そのために、同時に貨幣改革を行い小額の良貨を大量に製造し、実体貨幣の価値の回復を行い、銀行貨幣と実体貨幣の統合を実現することになった。こうして、銀行は年間900万ターラーに及ぶ多額の取引を展開し、神聖ローマ帝国内随一の帝国都市として繁栄を見ることになった。しかしながら、銀行経営は手形や支払指図証による信用決済はごく限られており、現金か口頭による振替等の決済が中心であり、都市商業の主要部分を信用取引で決済し、それによって域内の価値尺度決定を行い、価格を安定させる必要があったが、ニュルンベルクの都市統治構造により市場経済は十分発展を見るに至らず、商業の重要部分が現金や口頭による振替取引に止まり、価格決定は都市計算貨幣に

90) Ibid., S. 183ff.

91) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O., 131ff.

92) Sprenger, a. a. O., S. 122f.

よって担われることになった。16世紀中に確立されたニュルンベルク都市経済の価格決定機構は、銀行設立後もその機能を果たし続け、銀行貨幣による価格決定は実現しなかった。その結果、徐々に銀行貨幣と都市計算貨幣の相場が乖離し始め、1630年代には戦争の激化と共に都市の中立政策に必要な軍資金を銀行が肩代わりするようになり、銀行預金のかかなりの部分が都市金庫に移管され、銀行取引額も急速に減少していった。

都市内の良貨は年月を経るとともに減少し、50年代には遠隔地貿易に必要な高額良貨は払底し始め、70年代以降銀行はいったん預金された良貨は引出を禁止するようになった。銀行貨幣と都市計算貨幣の相場はより大きく乖離するようになり、都市計算貨幣による小額銀貨の減価は急速に進行した。他方で、銀行貨幣での減価は抑制され、銀行に良貨を預金するものは益々限られ、手数料の引き上げが行われることになった。18世紀にはいとニュルンベルク為替銀行は有力商人の資産の維持が主目的となり限られた決済しか行われなくなった。

アムステルダムでは北西ヨーロッパの市場の発展を受けて、引受信用による手形流通が広範な商人に開放され、主要な商業が信用決済され、銀行貨幣が商業取引の価値尺度となり、一般小売商業の価格まで支配するようになり、市場価格の安定を見ることになった。もちろん、域外から多様な小額貨幣が流入し依然として小額貨幣価値の減価は進行したが、オランダにおける商業活動の発展を妨げることはなかった。1694年に小額貨幣を含む貨幣改革が行われ、貨幣問題の解決が図られていった⁹³⁾。

アムステルダムでは市場経済の発展と共に債権の社会化が広範に進み、手形の引受信用による流通が達成され、支払指図証による決済と相まってオランダ内外の主要取引が信用状による決済によって行われるようになった。1584年のネーデルラント共和国の誕生と共に、商取引における国家的領域性とその内外での取引の区別が徐々に認識されるようになり、銀行設立と共にネーデルラント正貨を体現する銀行貨幣と外国貨幣との間で本来的な為替相場が成立し、公信用の引受や対外借款の授与による利子率の安定化と共に近代的決済システムとしてのアムステルダム為替銀行を頂点とする金融システムが確立されることになった。引受信用を授与したマーチャント・バンカーや巨大金融業者は同時に割引信用も授与し、こうしてアムステルダムでは世界の金融センターとして貴金属をはじめあらゆる種類の貨幣が集積することになった。

アムステルダムは発展する世界経済の中核都市として最も先進的な市場機構が形成され、潤沢な資本の存在とネーデルラント国民の巨額の預金が蓄積され、利子率は急激に低下し当時最低の2.5%にまで達することになる。これに対して、ニュルンベルクでは前近代的な市場構造が温存され、時間の経過とともに経済は停滞し、銀行取引額は急減し、とりわけ小額貨幣の減価から物価上昇が進行し、貨幣改革を繰り返さざるをえなくなった。ニュルンベルク市場構造の転換は、1806年フランケン地域のバイエルン王国への編入に伴う帝国都市の解体を待たねばならなかった。ニュルンベルク為替銀行は1827年に閉鎖された⁹⁴⁾。

93) Houtman-De Smelt, van der Wee, a. a. O., S. 130.

94) Rudolf Fuchs, Banco Publico zu Nürnberg, Nürnberg 1950, S. 5.

資料1 1520年帝国クライス制度

目的：防衛を主任務 治安・クライス内の平和の維持 貨幣制度の統一
組織：長官（Oberst），補佐官（Zugeordnete），公示事項担当諸侯（Kreisausschreibenamt）
会議：クライス会議（Kreistag）クライスの決議機関で全等族が参加 身分毎の部会に分かれ協議 各等族1票 平和維持 防衛 関税等の政治問題
長官 フランケン・クライス：バンベルク司教
クライス軍事評議会（Kreiskriegsratstag） 長官および補佐官の会議
有事の際にクライス軍の招集や他のクライスへの援助要請を協議
貨幣試験審議会（Münzprobationstag） 各クライス年2回開催
各クライス貨幣高権：帝国貨幣法に則って重量と品位が規定された帝国グルデン・ターラーに関して品位と金衡マルク重量から何個製造するかを決定する権利
委員長ニュルンベルク貨幣局長Gwardtein クライス貨幣規則による貨幣の統一 貨幣試験 流通禁止措置等の強制権 二週間半分使用可能後禁止
当時ドイツ全土で約600の貨幣製造所 貨幣発行クライス長官に届け出
フランケン・クライス主要参加者

聖界諸侯部会

バンベルク司教 ヴェルツブルク司教
アイヒシュテット司教
ドイツ騎士団フランケン管区

伯部会

カステル伯 エアバッハ伯
ホーエンローエ伯 リンブルク伯
リーネック伯 ライヒェルスブルク伯

俗界諸侯部会

ブランデンブルク・アンスバッハ辺境伯
ブランデンブルク・バイロイト辺境伯
ヘンネベルク伯

帝国都市部会

ニュルンベルク シュヴァインフルト
ローテンブルク・オブ・デア・タウバー
ヴァイセンブルク ヴィントハイム

Johan Looshorn, Geschichte des Bisthums Bamberg, Bamberg 1903, Bände 4, 5の関係文書による。

資料2 ニュルンベルク都市統治

1318年最初の記録 都市参事会 (consules 13名 scabini 13名 計26名) 小参事会
1348/49年都市騒擾 帝国内紛 ルクセンブルク家皇帝対ヴィッテルスバッハ家の対立 手工業者の参加 ツンフトの合法化 政治参加認められず
大参事会 (42人) の成立
1370年 ツンフト代表の参事会への参加 出納局長3名制 1人は手工業者代表
市長・助役2名による輪番制市制統治 出納局長等主要役職旧小参事会家系の門閥支配
16世紀 7人委員会による都市統治 旧小参事会支配継続
1363年ドイツ最初の産業調査 「親方一覧」
8部門50業種 親方1363名
金属加工業 (21業種 親方353名 27.5%) 皮革業 (9業種 親方333名 27.5%)
織物業 (6業種 親方198名 16.5%) 食品業 (3業種 親方166名 13.5%)
木工業 (3業種 親方64名 5%) 鋳工業 (3業種 親方45名 3.5%)
建築業 (2業種 親方25名 2%) その他 (3業種 親方33名 3%)
商人による問屋制前貸支配の開始
参事会 手工業経営の許認可権 市民権を有する親方に授与 景況による認可
都市行政 市長一官房 出納局 銀行局 計量局 貨幣局 裁判所
市場取引 (市場取締による自治的運営) 市場開催・他市場参加 商業および手形慣行等
都市任命商品仲介業者 (2週間ごとに市中価格 [都市計算貨幣建] の申告) 為替仲介業者
市場取締りによる市場仲裁裁判 [銀行と商人との紛争を調停] 最終審 都市裁判所
問屋制前貸体制の発展 商人による手工業支配 中小商人の自由な発展抑制
手形および支払い指図証による信用取引の範囲限定
両替業務 貨幣局長監督 直営の場合と指定商人による経営 3~4カ所の両替商 (所)
都市計算貨幣による徴税 年金・定期金支給 都市帳簿の作成・決算 為替相場の決定
銀行局による銀行の監督 銀行局=銀行裁判所 (銀行に関する紛争を調停)
銀行局: 都市参事会代表 (小参事会代表) 2名
法律顧問2名 (参事会勤務の法律博士12名から選任)
書記 (記録・書類作成) 1名
市場取締 (有力商人) 数名 商人の利害を代表し銀行局に帰属 銀行の日常業務を監視
商人代表助役 (長老を補佐) 12名 有力商人一族の利益代表 帳簿閲覧・取引の公平性
臨検条例 市門による臨検 悪貨の没収 新造良貨の都市内維持

出典 Peter Fleischmann, Rat und Patriziat in Nürnberg, 3 Bände, Neustadt 2010.

Rudolf Fuchs, Banco Publico zu Nürnberg, 1950 Dissertation Nürnberg.
ders, Banco Publico zu Nürnberg, Nürnberg 1950.

Hironobu Sakuma, Die Nürnberg Tuchmacher, Weber, Fäber und Bereiter
vom 14. bis 17. Jahrhundert, Nürnberg 1993. による。

資料3 バンコ・プブリコ（ニュルンベルク市立為替銀行）の概要

頭取（商人代表銀行経営者・最高出納責任者）〔供託金3.00.00fl・毎年兼業禁止誓約〕

有力商人からの推薦 参事会による厳密な吟味

副頭取（供託金1.00.00fl）書記（供託金15.00fl）4～5名

貨幣計算係 2名 貨幣の鑑定・評価業務 従業員（供託金10.00fl）1名 銀行内業務

使用人3名以内 運搬・連絡等の銀行外業務中心

営業時間 9時-11時 2時間 参事会代表1名と市場取締1名の立会

前半口頭による振替・手形による為替決済 後半現金決済 現金の引出は前日に通告

1日平均50件 多い日で100件 営業台帳に全件記載

手形決済 年平均100通 手形割引慣行一般化 年間銀行決済総数1.00.00件

手形決済1%程度 異常な少なさ

営業終了後の午後に負債帳や残高帳に転記

三十年戦争での中立政策 都市による両陣営への課徴金支払 銀行による融資（銀行債権）

最大30万グルデンの都市への貸付

融資の実行（内密） 年間15.00グルデンの利子収入

代理人制度 1621年代理人証書65枚保管 年40から70枚発行

代理証書

「偉大なる閣下、格別の計らいを願って親愛なるロート頭取にお願いがあります。神の加護によって私はライプツィヒに旅行中であり、その間ハンス・リンデ氏に私のささやかな財産の管理をお願いしました。彼は銀行で私があなたにお預けした資産の一部を私の必要のために署名し、周到な行為を行ってまいりますのでよろしく申し上げます。神の御加護を願ひ1627年9月17日」

全権受領者の署名

全権委託者の署名

公証人の面前で両者が署名し作成 原本は全権代理証書台帳に保管 公証人の印章押印

写しが銀行営業室に掲載 毎回台帳署名を確認

代理継続証書

「1625年10月7日全権所有者兄弟コンラート及びパウルス・シュレックは彼らの全権限及び執行権をコンラート・シュレッケン・ジュニアと従業員エラスモ・ランゲンに対して聖オレンツォの日より2年間上述の代理権を委託した 証人 カウツ及びヤコブ・ヴィンクラルン

クリストフ・レシウス 公証人」

出典 Fuchs学位論文による

資料4 銀行鳥瞰図

図1 取引帳簿

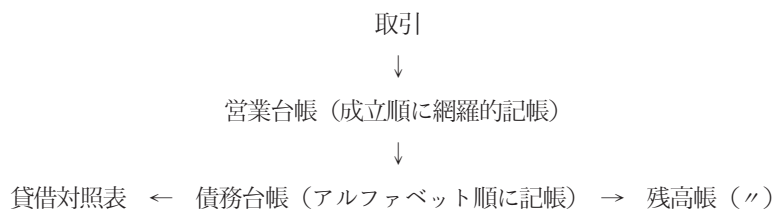


図2 金銭出納帳簿

- ・一般金銭出納簿〔外部との出納〕
- ・銀行出納簿〔銀行内3金庫の出納〕
- ・主出納簿〔都市当局との出納〕
- ・貨幣出納簿〔貨幣種類ごとの出納〕
- ・手数料出納簿
- ・費用簿〔行員給与等〕
- ・科料簿

図3 銀行取引図

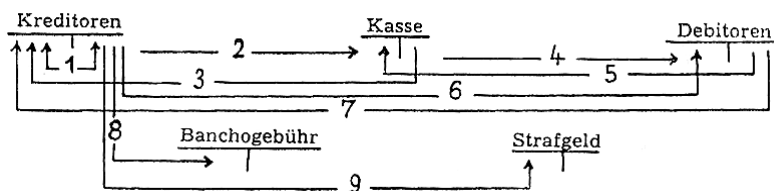
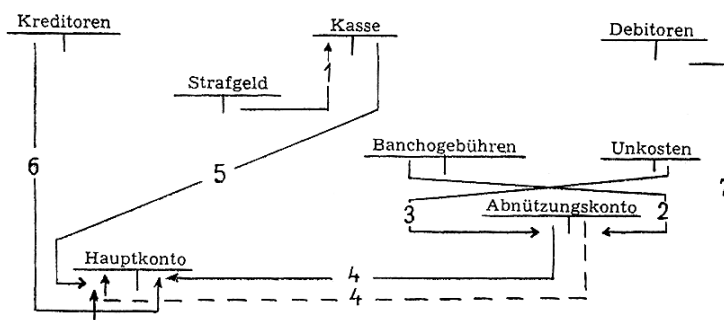


図4 決算系統図



[表紙]

No 2.

Münz Rechenbuch ec:

Anfangen nach Christj unsers

Einigen Heylands und seelig

Machrs Geburt 1607.

Den 1/11 September

Darinnen zu finden welches gestalt und

Was für Sorten (alß zue meiner Zeiten)

Durch des hochlöblichen Fränkichen Craißes

Gwardtein damals Hanßn huefnagel uf

Jeden Probationtag seindt

Vorgelegt worden

Von Anno 1607 biß Anno 1610

Wie hernach zu sehen

[ドイツ 10 クライス 名一覽]

Die Zehen Crais seind diese

Die Vier Chürfürsten am Rehin

Als

Mainz

Cöln

1	Thrier und	2	Ober: item
	Pfalz dann		
3	Nieder Sächsich	4	Osterreich
5	Burgund	6	Franckhen
7	Bayern	8	Schwaben
9	Reinisch und	10	Westphalen

資料5-2 フランケン・クライス貨幣試験報告書 帝国貨幣法抜粋

Des Heiliche Römischen Reichs

Münzordnung ec

Goldt

67 • Ducaten • sollen ein Mark: Cöllnisch Wegen

Und fein halten 23: karadt 8 • gren und

Der duch auß gegeben werden Pro: kreyzer — • 104 • —

72 • Goldgulden • sollen ein Mark: Cöllnisch Wegen

Und fein halten • 18 • karat • 6 • gren und das

Stuck ausgegeben werden • Pro kreyzer — • 75 • —

NB [nota bene : beachten]:

Ein halbe gren in ein Werck an einer

Mark zuegerinnng paßiert [erlaubt] doch das es wider

In einen andern erstatt Werd

Anno • 1559 • Ufgericht

Silber Münz

Achzehnen Pätzner Anno • 1551 •

Ufgeriht ec.

Als uf die marckh Cöllnisch

7 1/2 ganze Stück eine mk: der halt 14 lot 2 gren

15 • halbe erfolgt aus der feinen mk: fl 10 kreyzer 12 1/4

Item

27 5 Paznen

45 St. 3 Paznen ein mk. ist der halt 14 lot

90 6 Kreuzener 2 gren kombt aus der

Feinen mb. fl 10 kreuzer 12 1/4

Weiter

57 10 Kreuzer

114 St. 5 kreuzer ein mk. der halt 16 lot 14 gren

Kompt auß der feine mk. fl 10 kreuzer 12 1/2

Dann

124 St. 2 1/2 Kreuzer ein mk. Ist der halt 8 lot 0 gren

Erfolgst auß der feinen mk. fl 10 kreuzer 20

Nota Bene

Anno 1559 die hieneben stehende Sorden

als 18 Pätzner 5 und 3 Pätzner dann

die 6 Kreuzer P. [per: durch] Kayser Ferdinanto ec.

Item Anno 1566 die 10 5 und 2 1/2

Kr. P. Kayser Maximilian Secundo

Wider abgeschafft worden.

Volgende Sorden Anno 1559 bestettigt

und bißhero kein enterung damit

fürgenommen

Taller Pro 68 Kreuzer

8 . . . ganze

16 . . . halb

32 . . . viertel St. 1 mk. der halt 14 lot 4 . gren

64 . . . Achtel kombt die feine mk. auß P. fl 10 kreuzer 12

Güldengroschen a . 60 . kr.

9 1/2 ganze

19 halb St. ein mk. ist der halt 14 lot 16 .

gren entspringet 10 : 12 1/2 .

Drey . kreuzerer

94 1/2 St. ein mk. der halt 7 lot 5 gren entstehet

Auß der feinen mk. fl 10 kr. 23 1/4

Halbe Pazen

155 12 St. ein mk. der halt 8 lot 0 gren, kompt

fl 10 Kr. 22

Kreüzer

243 12 6 4

237 : St. 6 1 gren tt fl 10 26

Halbe Kreüzer

480 St. ein mk., der halt 6 lot 0 gren 𐆢 fl 10 Kr. 40

Groschen 21 Pro ein Gulden

108 12 St. ein mk., ist der halt 8 lot 0 gren 𐆢 fl 10 Kr. 20

Wirzb. Wirttenb. und Badnische.

Schilling als 28 Pro 1 fl und

das St. Pro 9 Pfenig

145 St. ein mk., ist der halt 8 lot 0 gren 𐆢 fl 10 Kr. 21

Sechzt Pfenninger als 42 Pro 1 fl

152 St. ein mk., der halt 5 lot 10 gren [tut] 𐆢 fl 10 Kr. 25

Dreyer Gröschlein 84 Pro 1 fl

274 St. ein mk., der halt 5 lot 0 gren kompt fl 10 Kr. 26 1/2

Wirzb. Wirtenb. Und Badnische.

Drey Heller Je 168 pro 1 fl

562 St. ein mk., der halt 5 lot 0 gren kompt fl 10 Kr. 42

Pfennig 252 Pro 1 fl

682 St ein mk., der halt 4 lot 0 gren 𐆢 fl 10 Kr. 49 1/2

Reinisch., Bayrisch. Und Schwebische

Pfennig 210: Pro 1 fl

636 St ein mk., der halt 4 lot 9 gren 𐆢 fl 10 Kr. 46

Osterreichsche Pfennig Je

240 Pro 1 fl

649 St ein mk., der halt 4 lot 0 gren 𐆢 fl 10 Kr. 49Helle

Heller

DieHeller sollen höher nit Vermünz Werden

alß das aus der feinen mk. erfolgt fl 11 kr. 5

NB: ein Werckh jn der Prob an der mk. umb

1 gren zuegerinnng paßirt, doch jn ein

Andern Werckh wider zuersetzen

Finis

資料5-3 1607年フランケン・クライス貨幣試験報告 デンマーク金貨の試験結果

Hernach volgende 14 Münzsorden, welche der
Reichsordnung ungemeyß sein uf dem
Probation Tag pro Regensburg
(• durch Hannsen Hüefnager [Hufnager]) den
22 September also fürgelegt
Worden Anno 1607 ec.
Königlicher Mayestät jn dennemarck
Ducaten Jarzahl 1607

Dießer Sordt Seindt mir nur 2 Stück zue Hnden komen, welche ufzogen und probirth gehen uf
die mk. Cöllnisch 67 St. helt die mk. feinen 22 karat 5 gren sein am gewicht der Reichsordnung
gemeyß und am holt ub 1 karat 3 gren zuegering und ist der guet gerechte ducaten nach der
Reichsordnung werdt 104 kreuzer. Wirdt demnach gefragt was dießer ducaten einer noch der
Reichsordnung. Item die Weil der ducaten jeziger Zeit 128 kreuzer gilt, was der selbe nach
solchem Preß Werdt, und was an 100 fl. nach gemeltem Preß alß 128 x der Reichsordnung nach
Verlust jst NB die Reichsordnung ist zuefinden jm folio 2 und 3

日本語訳

以下の14個が帝国貨幣法に則りレーゲンスブルクにおける1607年9月22日ニュルンベルク貨幣
長官（Gwardtein）フーフナゲルによって貨幣試験が行われた

1607年製デンマーク国王ドゥカート貨

この種の貨幣は2個手に入れることができた。試験の結果、この貨幣は品位22カラット5グレン
で1ケルン・マルク当たり67個製造され、品位は1カラット3グレン低く、帝国貨幣法に則り1ドゥ
カート当たり104クロイツァーに値し、帝国貨幣法でのドゥカートは128クロイツァーに値する
ので100グルデン当たり相当の損失を被る。

〔以下13種類の貨幣の試験結果が記載されている〕

資料6 1603年 ニュルンベルク市命令 E8 Nr. 1488

1603年2月19日 ニュルンベルク市命令

目録の要約：

高額貨幣の過大評価とそのような表による貨幣使用の禁止；市場取引における手形の受取と振替に関する規則の更新 写本 6枚綴じ 12頁

表紙：

命令

特定貨幣種の高騰；手形の受取；市場における支払によって生ずる振替に関する事

1603年

本文要旨：

高貴なる参事会は明確に親愛なる市民、居住する商人、そして人々に対して帝国議会や代表者会議さらには貨幣試験やクライス会議において決定し公布した勅令や規則の順守に努めてきた。しかしながら、粗悪な貨幣の流通によって混乱し、高額貨幣が高騰し、都市内の商取引が停滞し、手形の受取や振替業務が混乱遅滞している。現在、ライヒス・ターラーは75、フィリップス・ターラーは82、グルデン・グロッシェンは65、ドゥカートは121クロイツァーにまで高騰している。貧しい手工業者は日々苦しい暮らしを強いられており商人への支払に高い打歩を強要され、ますます苦しみが増している。そこで、以後、以下の相場を超えることを禁止する。ライヒス・ターラーは74、フィリップス・ターラーは82、グルデン・グロッシェンは64、ドゥカートは120クロイツァーを上限とする。

.....

手形の取り扱いについては従前通り受け入れてから3日後に決済すること

振替についての慣習については.....

.....

参事会命令 19日

2月1603年

Vergleich 1607

[Rs:] [左頁要旨]

1607

Copia von der vergleichung, wie die Kaufleit und die Handelsleit an dem Marckt aneinander bezalen sollen:

reichs daler sollen 80

die fillip daler sollen 90 Kreuzer gelten

die Ducaten sollen 129

Das sollen die Marckhts bezalungen durchaus seyn: das ist von E. E. W. bewillichet worden

Adi 1 [über gestrichenem: 9 –war aber richtig, siehe unten] Novembris A°. 1607.

[右頁本文]

Demnach sich in und bey dieser Statt Nurmberg, sonderlich aber am Marckht alhie, ein Zeitlang hero, der bezalungen halben, allerlay Confusion und strit zugetragen, und noch täglich Je lenger Je mehr begibt, in deme, Ob wol bißhero die Reichs Taler zu 80 Kreuzer, die Philips Taler zu 90 Kreuzer, und die Ducaten zu 129 Kreuzer nit allain am Marckht, bey Handelßleuthen, sonder auch sonst bey gemainer Statt, dero Handwerckhleuthen, Krämern, Pauer und Fuhrleuten, und darzu bey allen Genachberten, Stätten und Stenden, ohne widerred außgeben und genommen worden, und aber sich etliche in dieser Statt alhie, sonderlich die Jenigen, so die gelter in angezogenen sorten von und auß dieser Statt verführen, darwider spreitzen, und gemelter Sorten in ain Stückh anderst nit dann eines Kreutzers weniger nehmen, und haben, sich aber hergegen in Außgab deß gemainen Laufs verhalten wöllen, welches dann wir gehört, allerlay Zerrüttung gebüret, und dardurch noch viel einer mehrern steigerung zubefahren ist, damit aber nun diesem wie billich gesteuert, und fernere Weitleufigkeit mit unaufhörlicher und verderblicher steigerung deß gelts verhütet werde, also ist||zwischen Allen und Jeden Marckhts Verwandten und hernach unterschriebenen Handels und andern Personen eine solche einhellige Vergleichung gemacht und beschlossen worden, das es nun hinfuro mit Bezahlung der ob angeregten sorten, bey obgedachtem Preeß, alß nemblich den Reichstaler zu 80 Kreutzern, den Philips Taler zu 90 Kreuzer, und den Ducaten zu 129 Kreutzer gerechnet im einnemen und Außgeben, verbleiben, und Kainer denselben höher nehmen, oder außgeben, sonder bey ermelten Preeß verbleiben, und dawider nit handeln soll, indoch aber mit der außrücklichen beschaidenheit, im fahl in Könftig bey numehr angehenden Reichstag durch die Ro <emisch> Kay <serliche> M <ajestät>, oder Verainigung der Reichsstendt ein Anders statuiert, geordnet,

und gesetzt werden sollte, das demselben wie billich gehorsamblich gelebt, und nachgangen werden sollte, Und solches Alles steet, vest und unverbruchlich zu halten, und darwider nit zuthun, haben wir die hernach benante uns Alle mit aigen Handen unterschriben, Geschehen den 1 Monatstag November 1607.

[Der Text auf einer weiteren Kopie erneut, dort aber datiert: 4. November! Dafür dort die Unterschriften der Kaufleute:]

Wilhelm und Endres Im Hof und Mitverwandte

Martin und Georg Pfinzing, Gebrüder

Herdegen Tucher und Paulus Tuchers se. Söhne

Bernhart Nöttel d. Ä.

Christof Lang mp.

Eustachius Underholtzer mp.

Melchior Peuntner mp.

Matheus Fetzter und Gebrüder, und Paulus Sidlman

Wolf und Phillip Furleger, Paulus Gundlach

Stefan Prauns se. Erben

Sigmundt Gamersfelder se. Erben

Erasmus Schwab und Cunrat Vogt se.

Paulus Furleger und (??) Niclas Helffrich

Georg d. Ä. Marx und Daniel Hopfer, Mitverwandte

Julius und Wolf die Huetter mp.

Endres Kunl (ein ?) mp.

Hans Forstenhewßer se. Erben

Hans Sperringer und Jörg Walthurner

Erasmus Schilling

Leonhardt Maul (Meuler ?) mp.

Hans Herman

Paulus Scheurl, Marx Friderich Pfautd und Mitverwandte

Veit Pfautd mp.

Hainrich und Jörg Gewandtschneidters se. Erben

Und Hans Milleg

Bartholome Viatis und Marthin Peller

Hans Tramel, Andreas Flentz (Erben ?)

Laux Torrisani se. Erben und (??)

Thomas Odesalckho se. Erben

Hans Schöelln se. Erben
Conradt Petzen se. Erben
Hans Teuber, Wolf Schön und Mitverwandte
Sebastian Öheim, mein Handt
Esaias Kleweins se. Erben und Hans Heldt (en?)
Caspar Schlumpffen se. Erben
Hans Mülegk mp.
Carl Holtzschuher mp.
Hainrich Pilgrumbs d. Ä. se. Erben
Christof Roth
Sebastian Schiller und Hans Schulier
Werner Krassel
Martin Schmidt
Hans Bosch, Hainrich Hans Förenberger
Und Dietrich Semler
Davidt Kresser
Jeronimo Marstaller
Heinrich und Hans Müllegg
Und Policarpus Taffinger
Lienhardt Schwendendörfer und Mitverwandte
Sebastian Leuprecht
Caspar della Porta
Friderich Sperber
Alexander Puck
Hans Weyenmair

日本語訳要旨

54人の商人の署名による請願書

都市参事会の高額貨幣の相場決定に対する反対の請願

商人や手工業者さらには小売商や農民の日常取引における物価の上昇に対する抗議と、その原因である高額貨幣ライヒス・ターラーを80、フィリップス・ターラーを90、そしてドゥカートを129クロイツァーとする都市相場の決定にあり、即時引き下げる要求を54名の商人の署名によって請願

資料8 1607-10年貨幣試験結果 E8 Nr. 1509より作成

金貨：	種類	種類	
2ドゥカート	4	10ポルトガル金貨	1
1ドゥカート	54	1ポルトガル金貨	2
1ローゼンノーベル	1	1フランス・クローネ	2
1/2ローゼンノーベル	1	4スペイン・クローネ	1
1シッフノーベル	1	2スペイン・クローネ	1
1エンゲルローテン	1	1スペイン・クローネ	1
1/2スペイン・クローネ	1	1グルデン	27
			99種類
銀貨：			
1ターラー	117	新バツツェン	1
1銀貨クローネ	5	旧3バツツェン	16
1/2銀貨クローネ	1	新3クロイツァー	171
1/2ターラー	5	グロッシェン	18
1/5ターラー	4	3/2クロイツァー	1
1/20ターラー	1	旧1/2バツツェン	4
18バツツェン	1	新1/2バツツェン	34
1/2 18バツツェン	1	1クロイツァー	3
1/6 18バツツェン	1	1/2クロイツァー	4
1/4ターラー	4	18プェニヒ	1
1/8ターラー	1	15プェニヒ	1
1グルデン・グロッシェン	6	9プェニヒ	2
1/2プェニヒ	4	8プェニヒ	4
5バツツェン	6	5プェニヒ	1
10クロイツァー	14	5/2プェニ	1
5クロイツァー	1	3プェニヒ	6
3バツツェン	3	3ヘラー	3
6クロイツァー	3	その他プェニヒ	11
ポーランド・デウチヘン	8	ヘラー	1
旧バツツェン	8		477
※5種類の金貨と53種類の銀貨が通用不可判定			
49種類の金貨と16種類の銀貨が流通禁止措置			
当時699種類の貨幣存在			

資料9 市の負担による貨幣親方の小額良貨の製造 E8 Nr. 4233 fol 277.

524 以下の3人の貨幣親方の口座にfl 12465. 1. 1. を貸方記帳

主金庫への前貸しとして、さらに1621年11月27日から年度末の今日までに新しく発行し、都市領域に提供した小額貨幣に対して各親方に提供した銀行所蔵の帝国ターラーの超過分として銀行の主口座に対する信用の供与として以下のように行われた：

〔主金庫から帝国ターラー Rthlr. 142000, 帝国グルデンに換算してfl 461500を3人の貨幣親方に提供し、それを小額銀貨として良貨fl 472962. 39. 25を製造, 親方に対して合計fl 1.24.65.

1. 1. の債務を負う (3人の親方の口座に貸方記帳)〕

549 ハンス・クリストフ・ラウワーの口座にfl 7461. 9. 11. 貸方記入

彼は帝国ターラーで総額85000. 一. 一. 帝国グルデンに換算1Rthlr. = 3 1/4fl として合計fl 276250. 一. 一. を銀行から授与され, 48 7/10Rthlr. からfl 162 11/20の換算で小額銀貨を製造 上記のRthlr. 85000からfl 283711. 9. 11. 製造 ここから上記fl 276250. 一. 一. を差し引けば超過分が生ずる。こうして銀行債務としてfl 7461. 9. 11. 銀行金庫に計上

396 ハンス・ブルガーの口座にfl 3247. 18. 3. 貸方記入

彼は帝国ターラーで総額37000. 一. 一. 帝国グルデンに換算1Rthlr. = 3 1/4fl として合計fl 120250. 一. 一. を銀行から授与され, 48 7/10Rthlr. からfl 162 11/20の換算で小額銀貨を総計fl 123497. 18. 3. 製造 銀行から授与された上記のRthlr. 37000の帝国貨幣換算fl 120250. 一. 一. からの超過分fl 3247. 18. 3. 都市当局の債務として主金庫に計上

384 ゲオルク・ニュルンベルガーの口座にfl 1755. 12. 11. 貸方記入

彼は帝国ターラーで総額Rthlr. 20000, 帝国グルデンに換算1Rthlr. = 3 1/4fl として合計fl 65000. 一. 一. を銀行から授与され, 48 7/10Rthlr. からfl 162 11/20の換算で小額銀貨を総計fl 66755. 12. 11. 製造 銀行から授与された上記のRthlr. 20000の帝国貨幣換算fl 65000. 一. 一. からの超過分fl 1755. 12. 11. 都市当局の債務として主金庫に計上

Laus Anno 1621. Adj. 10. Augusti in Nürnberg

Nach dem von einem Edlen Ehren vesten fürsichtigen und hochweisen Rath des Heiligen Reichs Statt Nürnberg, unserer gebietenden lieben Obrigkeit, dero Bürgerschaft, Inwohnern und zugethanen zum besten, einen Bancho Publico Alhie Aufzurichten großg 〈ünstig〉 bewilligt, und zum Banchiero Christof Roth Burger und Handelsmann verordnet worden, Als wirdt Solcher hiemit und darüber in diesen Jornal zuschreiben, dato im Nahmen Gottes ngefangen, Der wolle hier zu sein gnad und Segen, damit es alles, zu erweiterung seiner Gottlichen Ehre, und des Nechsten Nutz und Wolfahrt, geraichen möge, gneidiglich verleihen, Amen.

• 2 • Caßa soll fl. 20000. —. —. P 〈er〉 Heinrich und Hanns Muelleg,
1 bezahlten sie dato baar fl. 20000. —. —.

Adj, 13. sito

• 2 • Casa soll fl. 7286. 10. —. P 〈er〉 Jeronymus Marstaller, umb zalt
• 3 • derselbe fl. 7286. 10. —.
• 2 • Casa soll fl 12000. —. —. P 〈er〉 Georg Lang, und Pauls Vogel, umb
• 4 • bezahlten sie dato baar fl. 12000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 4000. —. —. P 〈er〉 Bernhart Mayr,
• 5 • umb zalt Er baar fl. 4000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 3000. —. —. P 〈er〉 Octavio und Marx Antonio Luma-
• 6 • go, umb bezalten sie baar fl. 3000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 1225. —. —. P 〈er〉 Polycarpus Taffinger, umb zalt
• 7 • Er baar fl. 1225. —. —.
• 2 • Casa soll fl 2000. —. —. P 〈er〉 Daniel und Ruland von Lierdt
• 8 • umb zalten sie baar fl 2000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 3900. —. —. P 〈er〉 Hans Philipp, Hans Baptista
• 9 • Fürleger, und Wolf Gundlach, umb zahlten sie baar . . . fl 3900. —. —.
• 2 • Casa soll fl 20000. —. —. P 〈er〉 Arnold de Boureg,
• 10 • umb zalt Er baar fl 20000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 2000. —. —. P 〈er〉 Philips und Andreas Scherl,
• 11 • umb zalten sie baar fl 2000. —. —.
• 2 • Casa soll fl 1300. —. —. P 〈er〉 Georg Ayrmann,
• 12 • erlegt Er baar fl 1300. —. —.

Adj, 14. Dito

- 2 • Caßa soll fl 7066.13. 14. P <er> Anthoni Benevieni und Cosimo
- 13 • Sini, umb zahlten sievdato baar fl 7066. —. —.
- 2 • Caßa soll fl 10000. —. —. P <er> Herrn Wilhelm, Andresa im Hof
- 14 • und mit verwanten, umb erlegten dieselbe gleichfals baar . . . fl 10000. —. —.
- 2 • Caßa soll fl 10000. —. —. P <er> Abraham de Braa, umb zalt Er
- 15 • dato baar fl 10000. —. —.
- 2 • Caßa soll fl 6000. —. —. P <er> Hans Bosch see <lig> , Heinrich,
- 16 • Hans Fürnberger, und Dieterich Sembler, umb zalten sie baar fl 6000. —. —.
- 2 • Caßa soll fl 4000. —. —. P <er> Joachim Kleewein,
- 17 • umb zalt Er dato auch baar fl 4000. —. —.

[2頁]

Laus Deo Anno 1621 Adj 14 Augusti in Nürmb <erg>

- 2 • Caßa soll fl 5700. —. —. P <er> Andreas Sohners Seeligen
- 18 • Erben, umb Zalten sie Dato baar: fl 5700. —. —.
- Adj, 16 Ditto
- 7 • Polycarpus Taffinger soll fl 1225. —. —. P <er> Hanns Muelleggs
- 24 • See: Erben fl 1225. —. —.
- 18 • Andreas Sohners see: Erben sollen Gulden Zweitausent Vierhundert Einund
- 19 • siebenzig Schilling, Sechzehen, Heller Zween P <er> David und Martin
- Dillherr weiland Hans Schellen see: Erben fl 2471. 16. 2.
- 18 • Andreas Sohners see: Erben sollen Gulden Drei Tausent
- 20 • P <er> Leonhard beer fl 3000. —. —.
- 20 • Lienhard Beer soll Gulden Drei Tausent funfzig
- 3 • P <er> Jeronymus Marstaller fl 3050. —. —
- 10 • Arnold De Boureg soll Gulden Zwei Tausent, Sechzehen Schilling Dreizehen,
- 18 • hellen Vier P <er> Andreas Sohners see: Erben fl 2016.13. 4.
- 18 • Andreas Sohners see: Erben. sollen Gulden Zwei Tausent Vier hundert Sechs
- 3 • undfunfzig, Schilling Dreizeh <en>, hellen Vier p <er> Jeronymus Marstaller
- fl 2456.13.4.
- 3 • Jeronymus Marstaller, sollen Gulden Zwei Tausent Ein Hundert Zechs und
- 13 • Sechzig Schilling Dreizeh <en>, heller Vier P <er> Ant <oni> o Beniveni è Cosimo
- Sini fl 2166. 13. 4.
- 3 • Jeronymus Marstaller soll, Gulden Sibenhundert Neuund Sechzig, schilling drei,
- 21 • hellen Vier, P <er> Cornclius von Brecht fl 796. 3. 4.

資料11 1582から1624までの高額貨幣の相場一覧 E8 Nr. 1506 より作成

Jahr	Hat gegolten im Monat	Der Reichs Thaler	Der Gulden Thaler	Der Philips Thaler	Die Silber Crone	Die Reichs th:72	Ducaten oder Zechin	Der Gold fl	Span. Duplon	Der Creutz Ducat:	Span: einfache Cron	Franz. einf: Cron	Welsch einfache Cron	Der Engel- lot	Gewicht: Rosenobel	Der Schiff Nobel	Königi -sche Kopf Stuck: 5:10
1582		1: 8	1: —	1: 20	1: 24	1: 12	1: 45	1: 15	3: 20	1: 40	1: 32	1: 36	1: 32	3: —	3: 30	2: 38	1: 20
1587		1: 9	1: —	1: 20	1: 24	1: 12	1: 50	1: 17	3: 20	1: 40	1: 32	1: 36	1: 32	3: —	3: 30		1: 20
1590		1: 10	1: —	1: 20	1: 24	1: 12	1: 50	1: 18		1: 40	1: 32	1: 30					1: 20
1594		1: 11	1: 2	1: 20	1: 24	1: 12	1: 50	1: 19		1: 41		1: 36					1: 20
1596	Se 13 (23) F	1: 12	1: 4	1: 20	1: 24	1: 12	1: 50	1: 20			1: 34	1: 36	1: 34	3: —	3: 30		1: 20
1597		1: 12	1: 4	1: 20	1: 24	1: 12	1: 56	1: 20		1: 43	1: 34	1: 38	1: 34		4: —		1: 20
1598		1: 12	1: 4	1: 20	1: 24	1: 12	2: —	1: 20	3: 34	1: 43	1: 34	1: 40					1: 20
1599		1: 12	1: 4	1: 20	1: 24	1: 12	2: —	1: 20		1: 43					4: —	3: —	1: 20
1600		1: 12	1: 4	1: 20	1: 24	1: 12	2: —	1: 20				1: 40			4: —		1: 20
1601		1: 12	1: 4	1: 22	1: 24	1: 12	2: —	1: 22		1: 45			1: 34				1: 22
1602		1: 12	1: 4	1: 22	1: 24	1: 12	2: —	1: 22					1: 34				1: 22
1603		1: 13	1: 4	1: 22	1: 26	1: 14	2: —	1: 22	4: —			1: 40			4: —		1: 22
1604		1: 13	1: 4	1: 22	1: 26	1: 14	2: —	1: 22	4: —	1: 48							1: 22
1605		1: 15	1: 4	1: 24	1: 30	1: 15	2: 4	1: 30									1: 24
1606		1: 15	1: 4	1: 24	1: 30	1: 15	2: 4	1: 30					1: 34				1: 24
1607		1: 16	1: 8	1: 24	1: 30	1: 16	2: 7	1: 30									1: 24
1608		1: 20	1: 8	1: 30	1: 36	1: 20	2: 10	1: 30									1: 30
1609	Jul 7: De 19 A.	1: 24	1: 14	1: 30	1: 36	1: 24	2: 15	1: 40				2: —					1: 30
1610	Jul 10: No 19 A.	1: 24	1: 14	1: 30	1: 36	1: 24	2: 18	1: 45		2: —							1: 30
1611		1: 24	1: 14	1: 32	1: 36	1: 24	2: 20	1: 45							4: 30		1: 32
1612	Jul 19: No 8 A.	1: 24	1: 15	1: 32	1: 36	1: 24	2: 20	1: 45			2: —						1: 32
1613	Fe	1: 24	1: 16	1: 32	1: 36	1: 24	2: 20	1: 45					2: —				1: 32
1613	Se	1: 26	1: 16	1: 33		1: 26	2: 20	1: 45								4: —	1: 33
1614	Au	1: 28	1: 16	1: 34		1: 30	2: 20	1: 45			2: 10				5: —		1: 34
1615	Mā 21	1: 28	1: 16	1: 34		1: 30	2: 20	1: 45									1: 34
	No 17 A.	1: 30	1: 20	1: 40		1: 34	2: 30	1: 52									1: 40
1616	Jul 2 A., Ok 12 N	1: 30	1: 20	1: 40		1: 36	2: 30	1: 52		2: 12		2: 8					1: 40
1617	Mai 22 R.	1: 30	1: 20	1: 40		1: 37	2: 31	1: 52									1: 40
1618	Mai 15N	1: 32	1: 22	1: 42		1: 38	2: 32	2: —		2: 20		2: 16					1: 42
1619	No 20 N	1: 48	1: 36	1: 58		1: 54	2: 48	2: 10		2: 28		2: 30					1: 58
1620	Fe	2: 4	1: 50	2: 15	2: 15	2: 8	3: 4	2: 18	5: 40								2: 15

	Jun 11 A.	2: 8	1: 56	2: 18	2: 20	2: 10	3: 12	2: 20	6: 40	2: 58	2: 50	2: 50	2: 45	4: 40	7: —	6: 12	2: 18
	No 24 A.	2: 20	2: —	2: 30	2: 30	2: 24	3: 30	2: 30	6: —	3: 4	3: —	3: —		5: —	7: —	6: 45	2: 30
1621	Jan	2: 20	2: —	2: 30	2: 30		3: 30	2: 30	6: —								2: 30
	Fe	2: 24	2: 6	2: 36	2: 36		3: 36	2: 36	6: 30								2: 36
	Mä	2: 30	2: 10	2: 50	2: 50		3: 40	2: 40	7: —								2: 50
	Apr	2: 36	2: 15	3: —	3: —		3: 45	2: 45	7: 30								3: —
	Mai 25 A.	2: 48	2: 24	3: —	3: 8	2: 42	4: 30	3: —	8: —	4: 10							3: —
	Jun	3: 6	2: 36	3: 30	3: 30		4: 30	3: 30	9: —								3: 30
	Jul 29	3: 15	2: 52	3: 32	4: —	3: 20	5: —	3: 40	10: —	4: 40							3: 32
	Au	4: —	3: 30	4: 15	4: 30		6: 30	5: 15	12: —								4: 15
	Se	4: 30	4: —	5: 20	5: 48		8: —	6: 12	13: 30								5: 20
	Ok	5: —	4: 24	5: 36	6: —		9: 30	7: —	15: —								5: 36
	No	5: 30	4: 45	6: —	6: 30		10: 30	7: 30	16: 15								6: —
	De	6: 30	5: 30	7: —	7: —		12: —	8: —	19: —								7: —
1622	Jan 18	7: 30	6: 30	8: —	8: —		13: 30	10: —	22: —								8: —
	Fe	10: —	8: 30	11: 30	12: —		16: —	12: —	28: —								11: 30
	Mä 8: 15	10: —	8: 30	10: 20	11: —	10: 6	15: —	11: —	29: —	4: 20							10: 30
*	Jun 16	3: 15	2: 52	3: 32	4: —	3: 29	5: —	3: 40	10: —	4: 40							
NB	Von diesem Monat Martio ists an etlichen Orten noch verblieben, biß auf den 8. Oktobris, da es umb das halbe Theil abgewürdiget worden.																
*	Ok 1 A.	5: —	4: 30	5: 30	6: —		8: —	5: 45	13: —	7: 20	3: —						5: 30
*	No 22 A.	6: —	5: 30	6: 30	7: 20		9: 30	7: —	16: —								6: 30
1623	Jul 28* A	1: 30	1: 20	1: 40	1: 44	1: 34	2: 20	1: 44	3: —	2: 10	2: 4	2: 4	2: —	3: 24	5: 4	4: 30	1: 40
*	Au 27 N.	1: 30	1: 20	1: 40	1: 44	1: 34	2: 20	1: 44	3: —	2: 10	2: 4	2: 4	2: —	3: 24	5: 4	4: 30	1: 40
1624	Mai 14 N.						2: 30	1: 50									
	Anno 1623, den 28 Julii ist zu Augspurg durch die 3 Löbl <ichen> im Münzwesen Correspondirende Fränck., Bayr. Und Schwäb. Crayß beschl <ossen> worden, den Thaler bey dem Absatz der 1 1/2fl zu laß <en>.																

注記

7br=9月 ◇ 空白

数 1: 2は1Gulden 2Kreuzerを表す

N, R, A, FはそれぞれNürnberg, Regensburg, Augsburg, Frankfurtを表示

同様の一覧表が1682年にも作成

〈一次史料〉

ニュルンベルク市立古文書館 E 8

Nr. 1506	1582-1624年	1582から1624までの高額貨幣の相場一覧	2葉
Nr. 1509	貨幣台帳 (Nr. 2)	1607年貨幣試験貨幣試験評価一覧	48葉
Nr. 1521	1607-1608年の貨幣価値と貨幣流通	商人による請願	4葉
Nr. 1522	ニュルンベルク商人とアグスブルク商人の通貨, 手形支払や打歩に関する論争		6葉
Nr. 4188	Banco Publico の設立と業務委託に関する建議書	6葉	綴じ本
Nr. 4191	貨幣貶質とそれに関連する Banco Publico の設立, 報告と参事会の申合せ (Bancobuch)	からの抜粋4葉	綴じ本 1621-1663年
Nr. 4192	1622年以來の Banco Publico の変更点の解説	1695年	6葉
Nr. 4213	1621年7月6日付け Banco Publico 設立条例コピー	5葉	綴じ本
Nr. 4214	貨幣評価, 銀行外支払, 銀行閉鎖等に関する申合せ及び判断	1621-1624年	23葉
Nr. 4217	銀行支払及び手形支払, 銀行手数料, 現金預金, 現金購入, 現金流出に関する市参事会申合せ	9葉	1622-1749年
Nr. 4233-4290	ニュルンベルク在 Banco Publico に関する営業台帳 1621-1815年		
Nr. 4233	AA	1621年8月10日-1622年7月31日	
Nr. 4234	BB	1622年8月21日-1623年7月31日	
Nr. 4235	CC	1623年8月25日-1624年7月31日	
.....			
Nr. 4763	1621/22年に貨幣親方に対して提供された帝国ターラーとそれによって製造された流通貨幣	1622年	4葉
Nr. 4764	上記貨幣親方によって帝国ターラーと引き換えに提供された流通貨幣	1622年	2葉
Nr. 4765	銀行頭取クリストファー・ロートによる銀行に存在する貨幣親方によって製造された流通貨幣の損失と利益に関する一覧	1622年	4葉
Nr. 4766	1622年時点における銀行の貨幣有り高の一覧	1622年	4葉

〈主要参考文献〉

- Walter Bauernfeind, Materielle Grundstrukturen im Spätmittelalter und der frühen Neuzeit
Preisentwicklung und Agrarkonjunktur am
Nürnberger Getreidemarkt von 1339 bis 1670,
Nürnberg 1993.
- Hans Berbig, Die Erneuerung der Nürnberger
Zollfreiheit in Strassburg während des 17. und
18. Jahrhunderts, in, Nürnberger Mitteilungen,
Nr. 53 1965, SS. 255-258.
- Fernand Braudel, Frank Spooner, Price in Europe
from 1450 to 1750, in, The Cambridge
Economic History of Europe. Bd. 4. Cambridge
1967.
- Markus Bittmann, Kreditwirtschaft und
Finanzierungsmethoden Studien zu den
wirtschaftlichen Verhältnissen des Adels
im westlichen Bodenseeraum 1300-1500,
Stuttgart 1991.
- Fritz Blaich, Die Wirtschaftspolitik des Reichstags
im Heiligen Römischen Reich, Stuttgart 1970.
- Markus A. Denzel, Kurialer Zahlungsverkehr im
13. und 14. Jahrhundert, Stuttgart 1991.
- ders, "La Practica della Cambiatura" Europäis-
cher Zahlungsverkehr vom 14. bis zum 17.
Jahrhundert, Stuttgart 1994.
- Richard Ehrenberg, Die Nürnberger Börse, in,
Mitteilungen des Vereins für Geschichte der
Stadt Nürnberg. 8. 1889. S. 69-86.
- Hansheiner Eichhorn, Der Strukturwandel im
Geldumlauf Frankens zwischen 1437 und 1610,
Wiesbaden 1973.
- Wilhelm Fickert, Geldwesen, Kaufkraft und
Maßeinheit im Bereich des Fürstentums
Kulmbach-Bayreuth, Nürnberg 1989.
- Peter Fleischmann, Rat und Patriziat in Nürnberg,
3 Bände, Neustadt 2010.
- Rudolf Fuchs, Banco Publico zu Nürnberg, 1950
Dissertation Nürnberg.
- ders, Banco Publico zu Nürnberg, Nürnberg
1950.
- Friedrich-Wilhelm Henning, Handbuch der
Wirtschafts- und Nürnberger Sozialgeschichte
Deutschlands, München 1991.
- ders, Zahlungsmitteln und Nichtmetallgeld
im ausgehenden Mittelalter. Beitrag zur
Entwicklung von Buch- und Papiergeld, in,
Kellenbenz (hrsg.), a. a. U. S. 39-60.
- Hermann Kellenbenz (hrsg.), Weltwirtschaftliche
und währungspolitische Probleme seit dem
Ausgang des Mittelalters, Stuttgart 1981.
- Hans J. Keller, Die Münze der Freien Reichsstadt
Nürnberg, Grünbach bei München 1956.
- Johan Looshorn, Geschichte des Bistums
Bamberg, Bamberg 1903, Bände 4,5.
- Rainer Metz, Geld, Währung und Preisentwicklung,
Frankfurt am Main 1990.
- Michael North, Das Geld und seine Geschichte
Vom Mittelalter bis zur Gegenwart, München
1994.
- ders (hrsg.), Geldumlauf, Währungssysteme und
Zahlungsverkehr in Nordwesteuropa 1300-
1800 Beiträge zur Geldgeschichte der späten
Hansezeit, Köln 1989.
- ders (hrsg.), Kredit im spätmittelalterlichen und
frühneuzeitlichen Europa, Köln 1991.
- Lambert Peters, Der Handel Nürnbergs
am Anfang des Dreißigjährigen Kriegs.
Strukturkomponenten, Unternehmen und
Unternehmer. Eine quantitative Analyse,
Stuttgart 1994,
- ders, Einführung in die Erfassung, Aufbereitung
und Analyse von Quellen zur internationalen
Handels- und Bankgeschichte. Banco Publico
1621/22-1647/48-Hamburger Bank 1619 -
Amsterdamer Bank 1625, in, Mitteilungen
des Vereins für Geschichte der Stadt
Nürnberg, 91. Band Nürnberg 2004.
- ders, Strategische Allianze, Wirtschaftsstandort
und Standortwettbewerb Nürnberg 1500-1625,
Frankfurt am Main 2005.

- Gerhard Pfeiffer, Die Privilegien der französischen Könige für die oberdeutschen Kaufleute in Lyon, in, Nürnberger Mitteilungen, Nr. 53 1965, SS. 150–194.
- Hans Pohl (hrsg.), Europäische Bankengeschichte, Horst Pohl, Willibald Imhoff Enkel und Erbe Willibald Pirckheimers, Nürnberg 1992.
- Angela Redish, Bimetallism: Economic and Historical Analysis, Cambridge 2000.
- Hironobu Sakuma, Die Nürnberg Tuchmacher, Weber, Fäber und Bereiter vom 14. Bis 17. Jahrhundert, Nürnberg 1993.
- Paul Sander, Die Reichsstädtische Haushalt Nürnbergs dargestellt auf Grund ihres Zustandes von 1431–1440, Leipzig 1902, 2 Bände.
- Ernst Scholler, Der Reichsstadt Nürnberg Geld- und Münzwesen in älter und neuerer Zeit, Nürnberg 1914.
- Eckert Schremmer (hrsg.), Geld, Währung vom 16. Jahrhundert bis zur Gegenwart, Stuttgart 1993.
- ders, Wirtschaftliche und soziale Integration in historischer Sicht, Stuttgart 1996.
- ders, Wirtschafts- und Sozialgeschichte Gegenstand und Methode, Stuttgart 1998.
- Max Spindler (hrsg.) Bayerischer Geschichtsatlas, München 1969.
- Bernd Sprenger, Das Geld der Deutschen Geldgeschichte Deutschlands von den Anfängen bis zur Gegenwart, München 1995.
- 泉谷勝美『複式簿記生成史論』森山書店 1980年
- 齊藤寛海『中世後期イタリア商業と都市』知泉書館 2002年
- 柴田三千雄他編『移動と交流』シリーズ世界史への問 3 岩波書店 1990年
- 竹内晴夫『信用と貨幣 貨幣存立の根拠を問う』御茶の水書房 1997年
- 竹岡敬温『近代フランス物価史序説』創文者 1974年
- 徳永正二郎『為替と信用』新評論 1976年
- 名城邦夫『中世ドイツ・バムベルク司教領の研究』ミネルヴァ書房 2000年
- 同「中世後期・近世初期西ヨーロッパにおける支払決済システムの成立—計算貨幣による市場統合—」『名古屋学院大学論集（社会科学篇）』Vol. 43 No. 1 2006年
- 同「中世後期・近世初期ヨーロッパ・ドイツにおける支払決済システムの成立—アムステルダム市立為替銀行の意義—」同上雑誌Vol. 45 No. 1 2008年
- 深沢克己『国際商業』ミネルヴァ書房 2002年
- フェルナン・ブローデル著浜名優美訳『地中海』第4巻 藤原書店 1999年
- 楊枝嗣郎『イギリス信用貨幣史研究』九州大学出版会 1982年
- 同『近代初期イギリス金融革命』ミネルヴァ書房 2004年
- 同「1696年の銀貨大改鑄と抽象的計算貨幣としてのポンド—イギリス初期銀行業の貨幣平制度的背景(2, 上・下)」『滋賀大学経済論集』29巻3・4合併号1996年, 30巻1・2合併号 1997年
- レイモン・ドゥ・ルーファ著楊枝嗣郎訳「為替手形発達史—十四～十八世紀—」『滋賀大学経済論集』19巻1号 1986年